平成 29 年度

全国学力・学習状況調査結果報告

川西市教育委員会

目　次

Ⅰ．調査の概要

（1）調査の目的
（2）実施日
（3）調査内容
（4）市内の参加状況
（5）分析の際の基準の考え方

Ⅱ．全国学力・学習状況調査結果分析・活用の方向性

Ⅲ．平成 29 年度川西市の学力状況

川西市の学力状況
（1）教科全体の平均正答率
（2）川西市の平均正答率の推移
（3）教科別　正答数の階層別分布状況
（4）学習指導要領の領域別平均正答率

Ⅳ．平成 26 年度と平成 29 年度（同一児童生徒の追跡調査を含む）の調査結果の比較

（1）教科の平均正答率の比較による追跡
（2）質問紙調査結果の比較による追跡

Ⅴ．平成 29 年度生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果の概要

（1）学習環境、学校生活等における平成 29 年度質問紙調査結果の概要
（2）学習環境、生活習慣等に関する質問紙調査結果経年比較並びに平成 29 年度質問紙調査結果と学力のクロス分析

Ⅵ．今後の取り組みについて

Ⅰ．調査の概要

（1）調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- この取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

注）なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面である。（平成 29 年度実施要項より）

（2）実施日

平成 29 年 4 月 18 日（火）

（3）調査内容

- 小学校第 6 学年、中学校第 3 学年の児童生徒対象
- 教科に関する調査（国語、算数/数学）
  ①主として「知識」に関する問題（A）
  ②主として「活用」に関する問題（B）

- 生活習慣や学習習慣等に関する質問紙調査
  ①児童生徒に対する調査
  ②学校に対する調査

（4）市内の参加状況

- 小学校実施人数（16 校）

国語Ａ	1,315 名	国語Ｂ	1,314 名
算数Ａ	1,315 名	算数Ｂ	1,313 名
児童質問紙	1,311 名		

- 中学校実施人数（7 校）

国語Ａ	1,382 名	国語Ｂ	1,381 名
数学Ａ	1,380 名	数学Ｂ	1,380 名
生徒質問紙	1,373 名		

（5）調査結果の取扱いについて

文部科学省では、全国学力・学習状況調査結果公表にあたって、①数値データを上昇させることが主たる関心事とならないよう留意するため、②小数第１位以下の数値を公表することで数値データによる単純な比較が行われ、序列化や過度な競争を助長する１つの要因として考えられるため、これらに鑑み、都道府県別及び各市町の平均正答率については、整数値で公表している。また、調査結果の状況について文部科学省は、「ほとんどの都道府県が平均正答率の±5%の範囲内にあり、大きな差は見られない」と表現している。そのため、本市においても、文部科学省の趣旨をふまえ、公表資料を作成することとする。

Ⅱ．全国学力・学習状況調査結果分析・活用の方向性

(1)　「学力」に関する我が国の子ども達の課題

・判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べること
・実験結果を分析して解釈・考察し説明したりすること
・学ぶことの楽しさや意義が実感できているかということ
・自分の判断や行動がよりよい社会づくりにつながるという意識がもてているかということ
・情報化の進展に伴い、特に子どもにとって言葉を取り巻く環境が大きく変化する中で、一定量の文章に接する機会が変化してきており、「読解力」の低下につながっていること

(2)　２０３０年とその先の社会を見据え子ども達に育てみたい力

変化の激しい社会を生きるために必要な「生きる力」

・解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解く力
・定められた手続きを効率的にこなしたりする力

＋

・主体的に学びに向かい、必要な情報を判断し、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り拓いていく力
・対話や議論を通じて、自分の考えを根拠にして伝えるとともに、他者の考えを理解し、自分の考えを広げ深めたり、集団としての考えを発展させたり、他者への思いやりを持って多様な人々と協働したりしていくことができる力
・試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見・解決につなげていくことができる力

(3)　２０３０年とその先の社会を想定した「学力」の育成にむけた環境づくりについて

・自らの能力を引き出し、学習したことを活用して、生活や社会の中で出会う課題の解決に主体的に生かしていけるように授業を改善していく必要性
・言語活動を通じてどのような力を育み伸ばすのかを、より明確にして実践していくことの必要性

Ⅲ．平成 29 年度川西市の学力状況

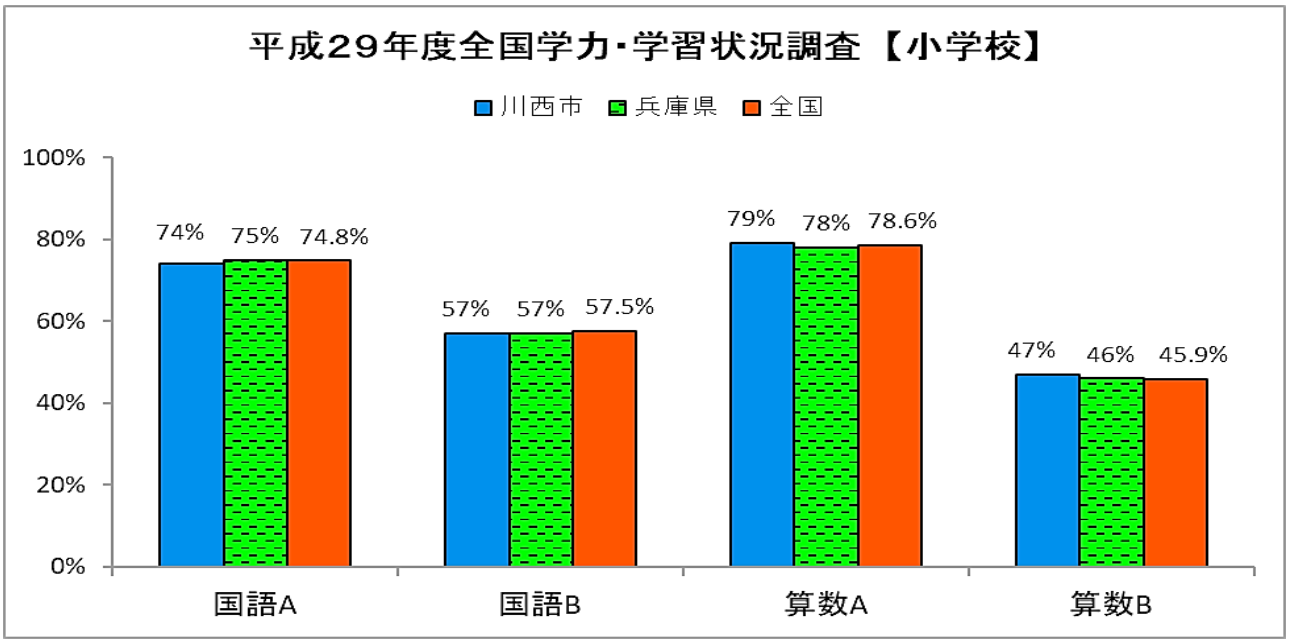
【小学校】

（1）教科全体の平均正答率

	国語A（15問）	国語B（9問）	算数A（15問）	算数B（11問）
川西市	74%	57%	79%	47%
兵庫県	75%	57%	78%	46%
全国	74.8%	57.5%	78.6%	45.9%
全国との差	−0.8	−0.5	0.4	1.1

＊各教科ごとの平均正答率については、平均正答数÷調査問題数により算出

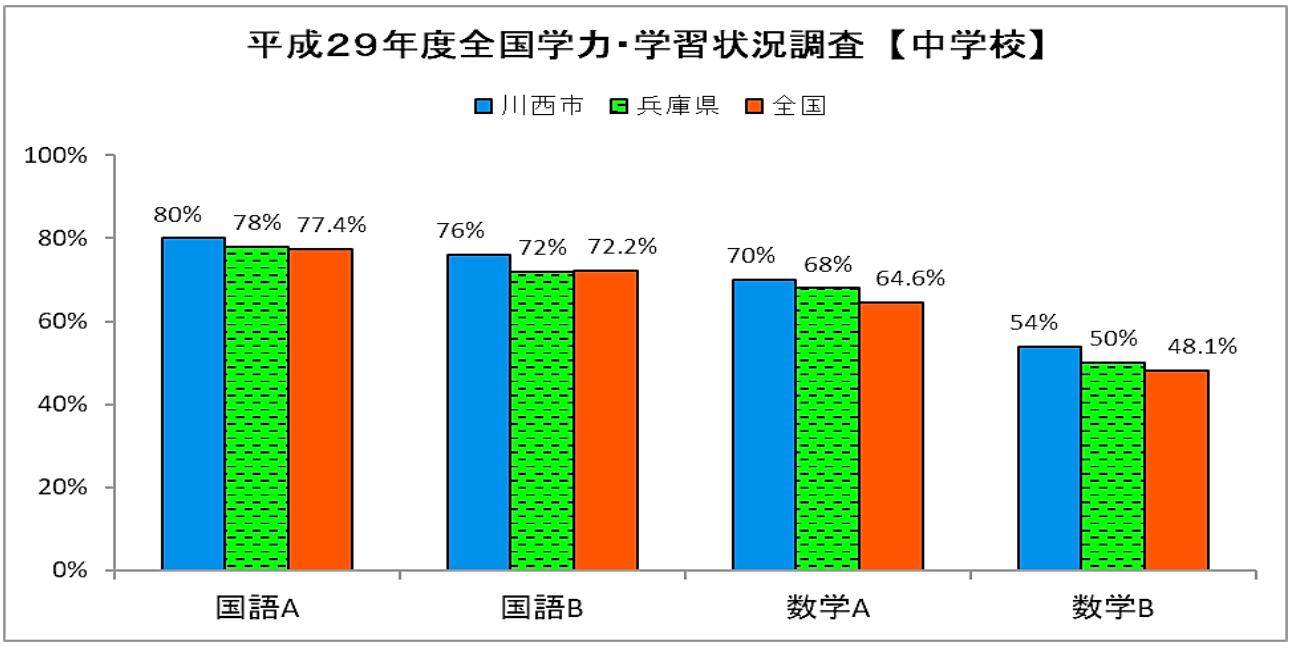
＊全国との差については、全国平均正答率－川西市平均正答率により算出



川西市平均正答率を兵庫県、全国と比較すると、
国語Ａ（知識）は 74%（兵庫県比　−1、全国比　−0.8）
国語Ｂ（活用）は 57%（兵庫県比　差はみられない、全国比　−0.5）
算数Ａ（知識）は 79%（兵庫県比　＋1、全国比　＋0.4）
算数Ｂ（活用）は 47%（兵庫県比　＋1、全国比　＋1.1）である。
全国と比較して、いずれも±5%の範囲内にある。

【中学校】

中学校	国語A(32問)	国語B(9問)	数学A(36問)	数学B(15問)
川西市	80%	76%	70%	54%
兵庫県	78%	72%	68%	50%
全国	77.4%	72.2%	64.6%	48.1%
全国との差	2.6	3.8	5.4	5.9

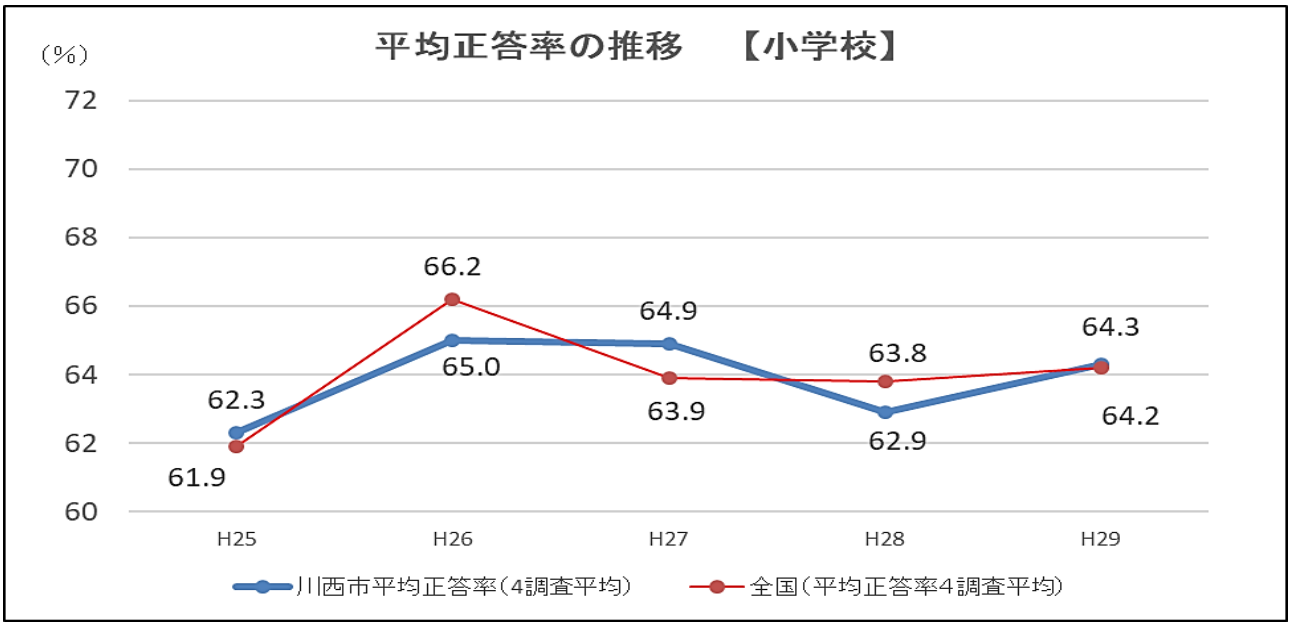


川西市平均正答率を兵庫県、全国と比較すると、
国語Ａ（知識）は 80%（兵庫県比　+2、全国比　+2.6）
国語Ｂ（活用）は 76%（兵庫県比　+4、全国比　+3.8）
数学Ａ（知識）は 70%（兵庫県比　+2、全国比　+5.4）
数学Ｂ（活用）は 54%（兵庫県比　+4、全国比　+5.9）である。
全国と比較して、いずれも±5%の範囲内または上回っている。

（2）川西市の平均正答率の推移

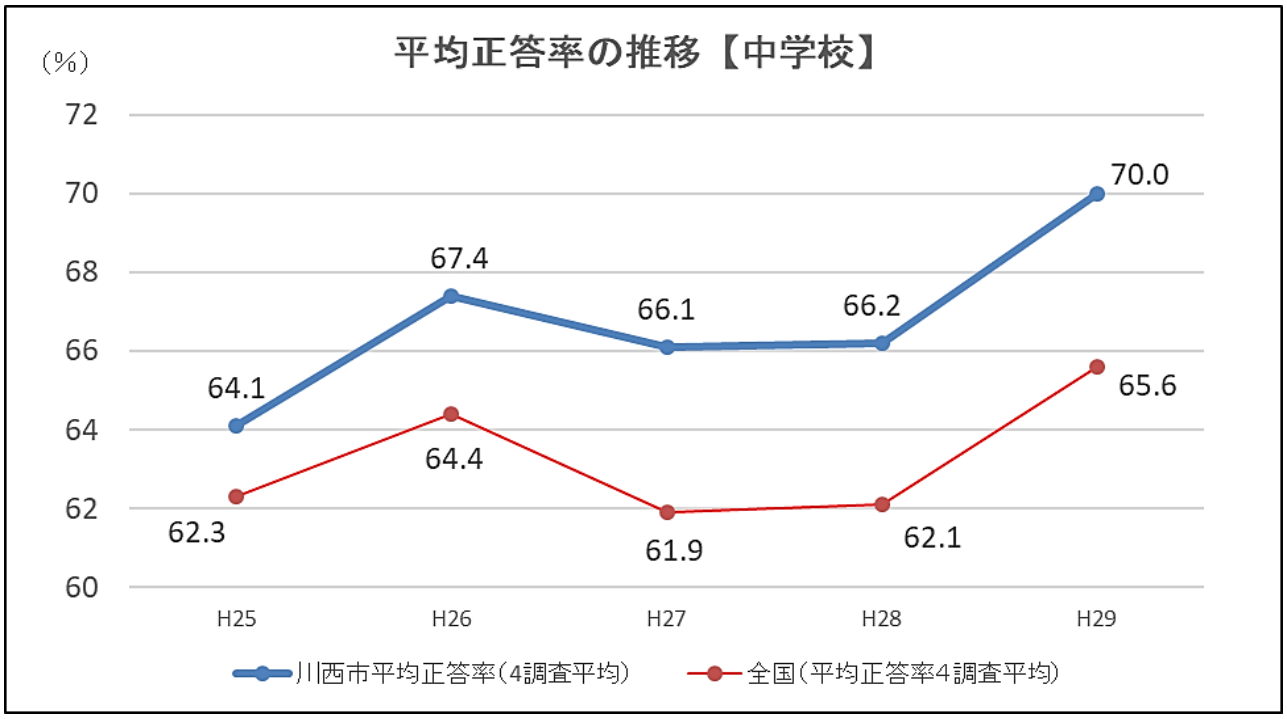
＊各年度ごとの平均正答率は、国語Ａ・Ｂ、算数/数学Ａ・Ｂを合計した平均により算出

【小学校】



年度によりバラつきがみられるものの、川西市平均正答率（４調査平均）は全国平均正答率（４調査平均）と僅差で前後する状況であり、総じて良好な状況と言える。

【中学校】

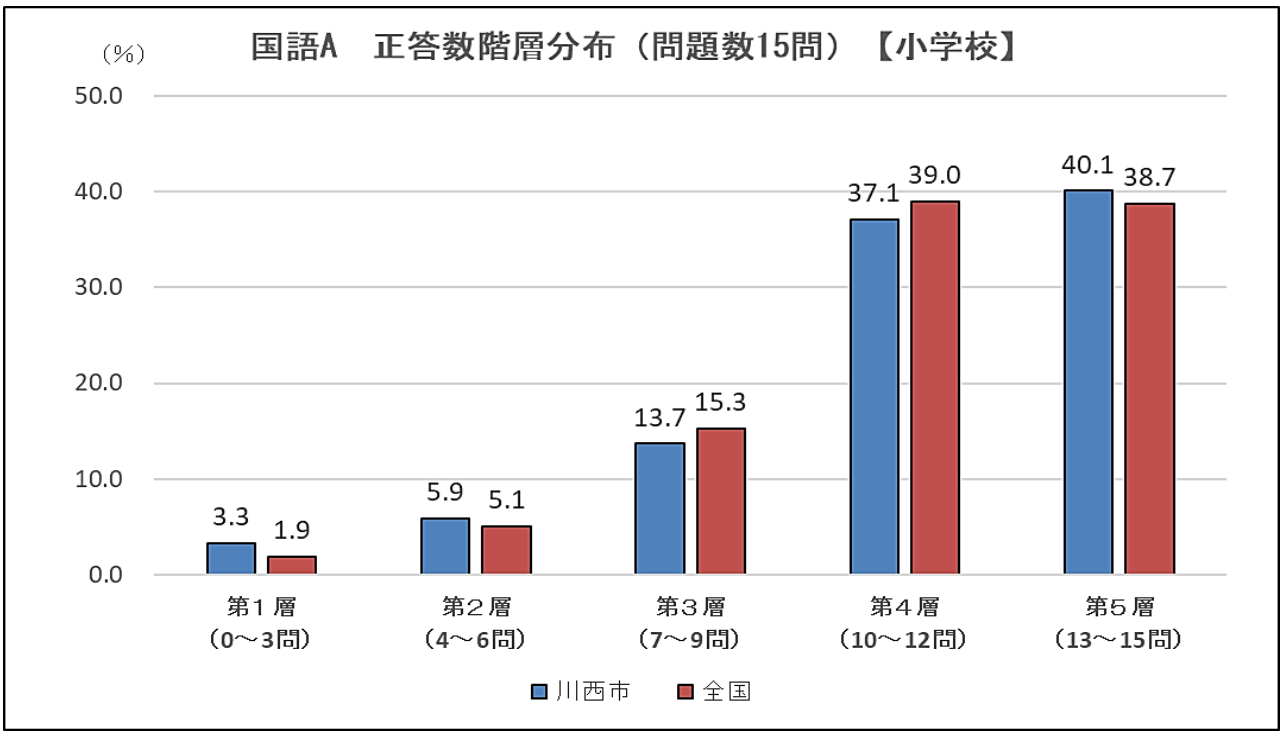


年度に大きく左右されることなく、川西市平均正答率（４調査平均）は、２～４％、全国平均正答率（４調査平均）を上回っており、安定した学力の定着を見せている。

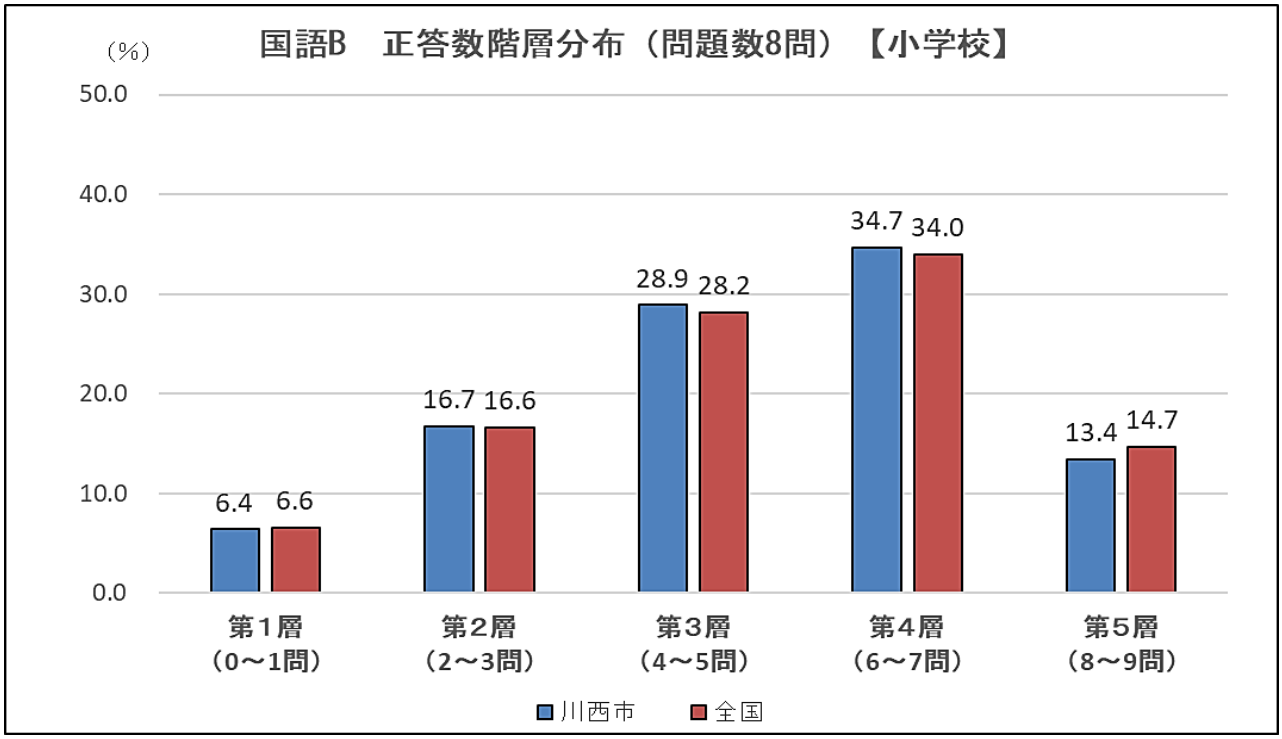
(3) 教科別　正答数の階層別分布状況

【小学校】

【国語 A】

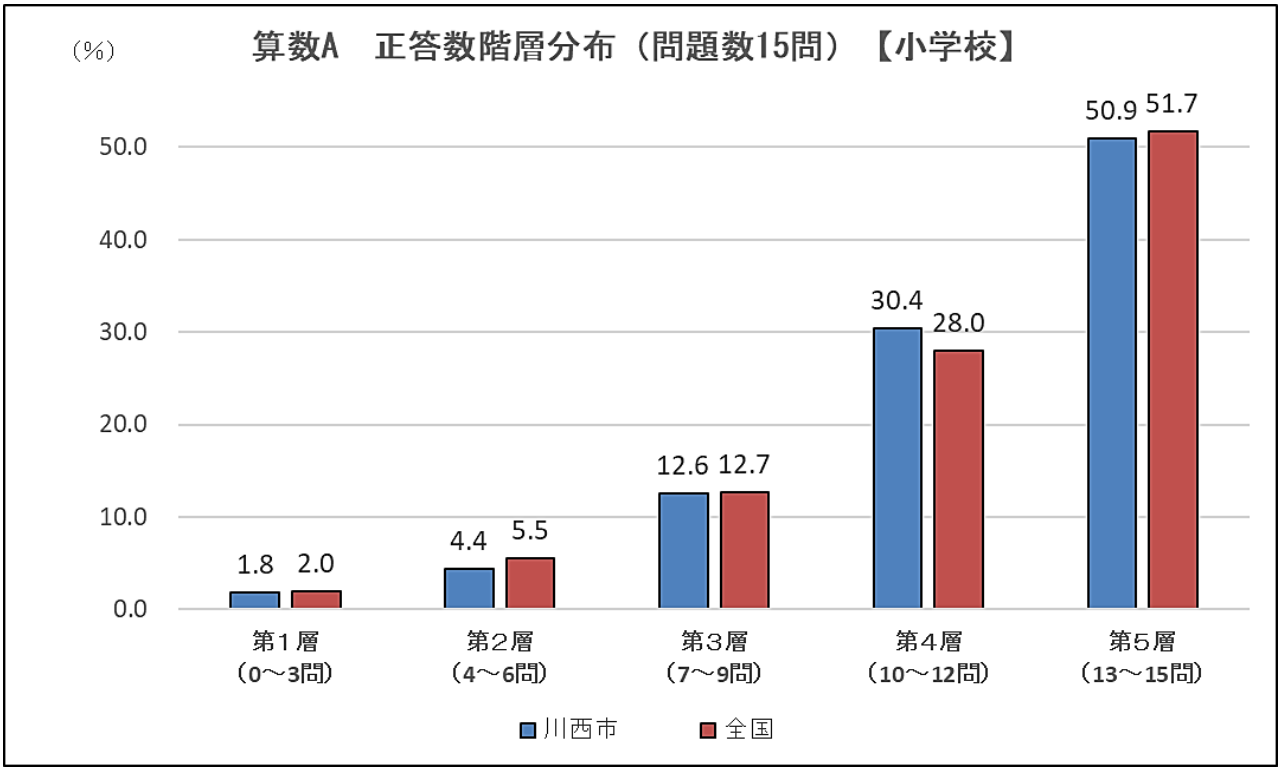


【国語 B】

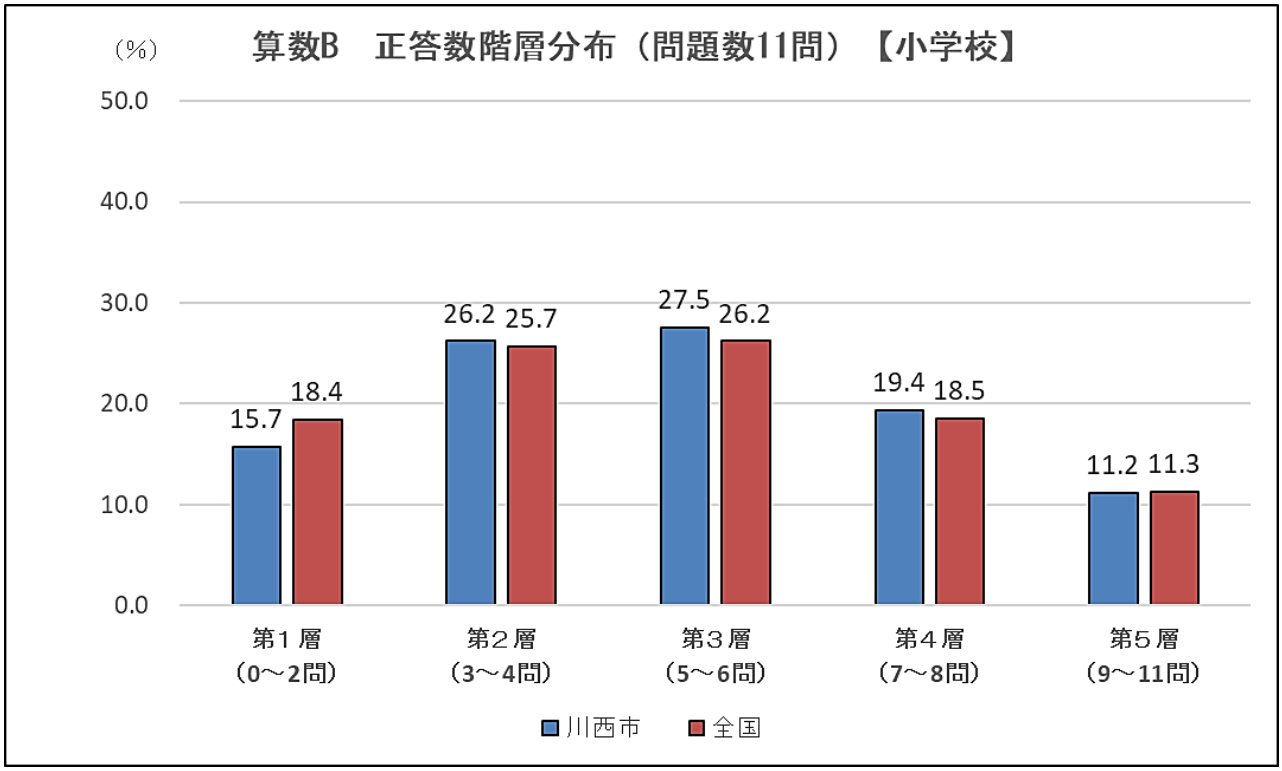


国語 A、第５層は全国を上回っているものの、第１層、第２層も多くみられる。国語 B でも、第２層、第３層が全国よりやや多い。国語 A･B ともに、底上げが今後の課題である。下位層の「つまずき」を授業の中で把握し、適切な対応を図る必要がある。

【算数 A】



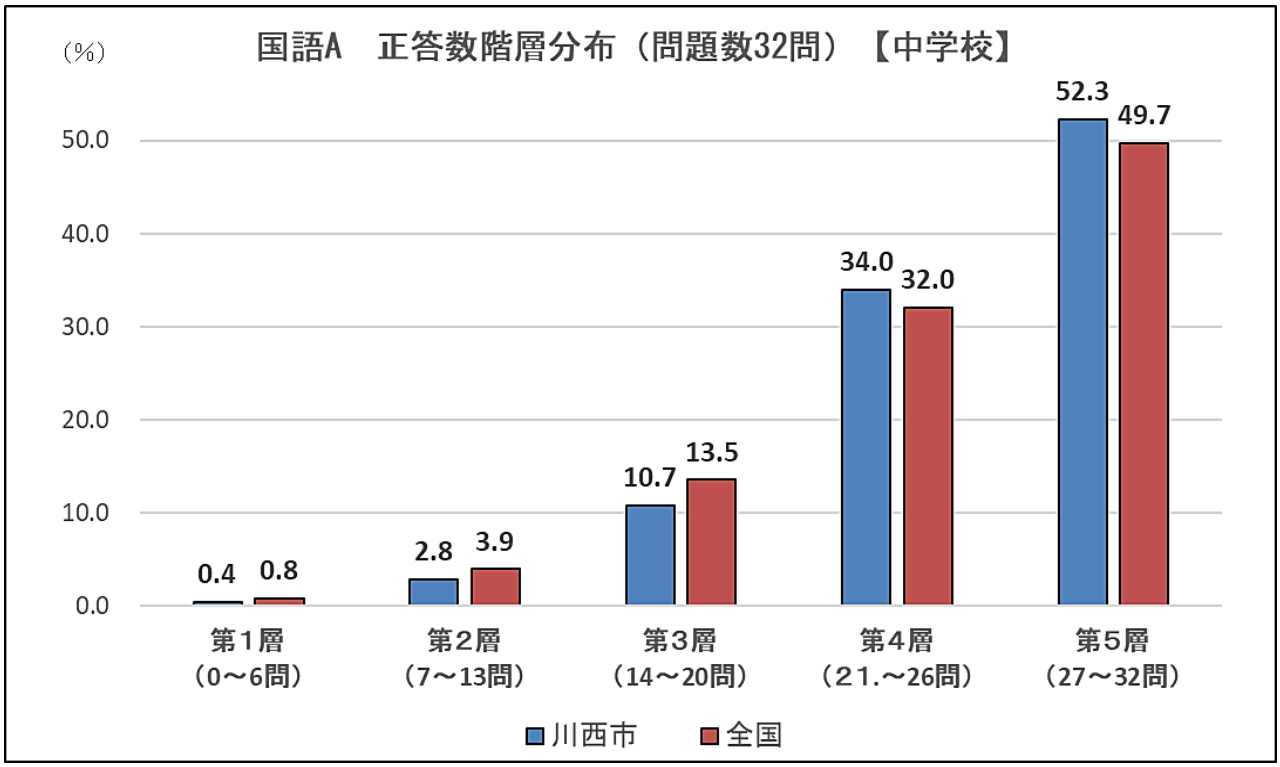
【算数 B】



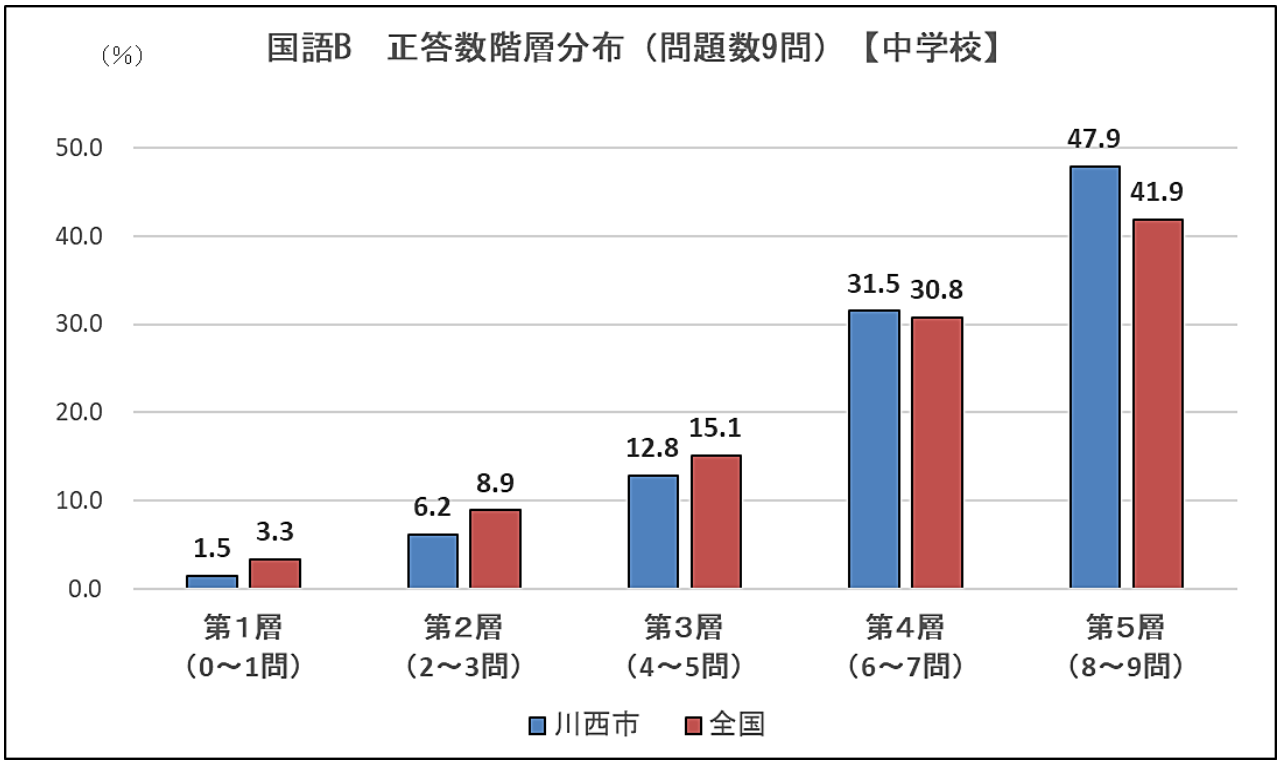
算数 A では、第４層、第５層が平均正答率を押し上げている。算数 B では、全国と同じ分布傾向を示しているが、第２層、第３層の引き上げに取り組む必要性がある。

【中学校】

【国語 A】

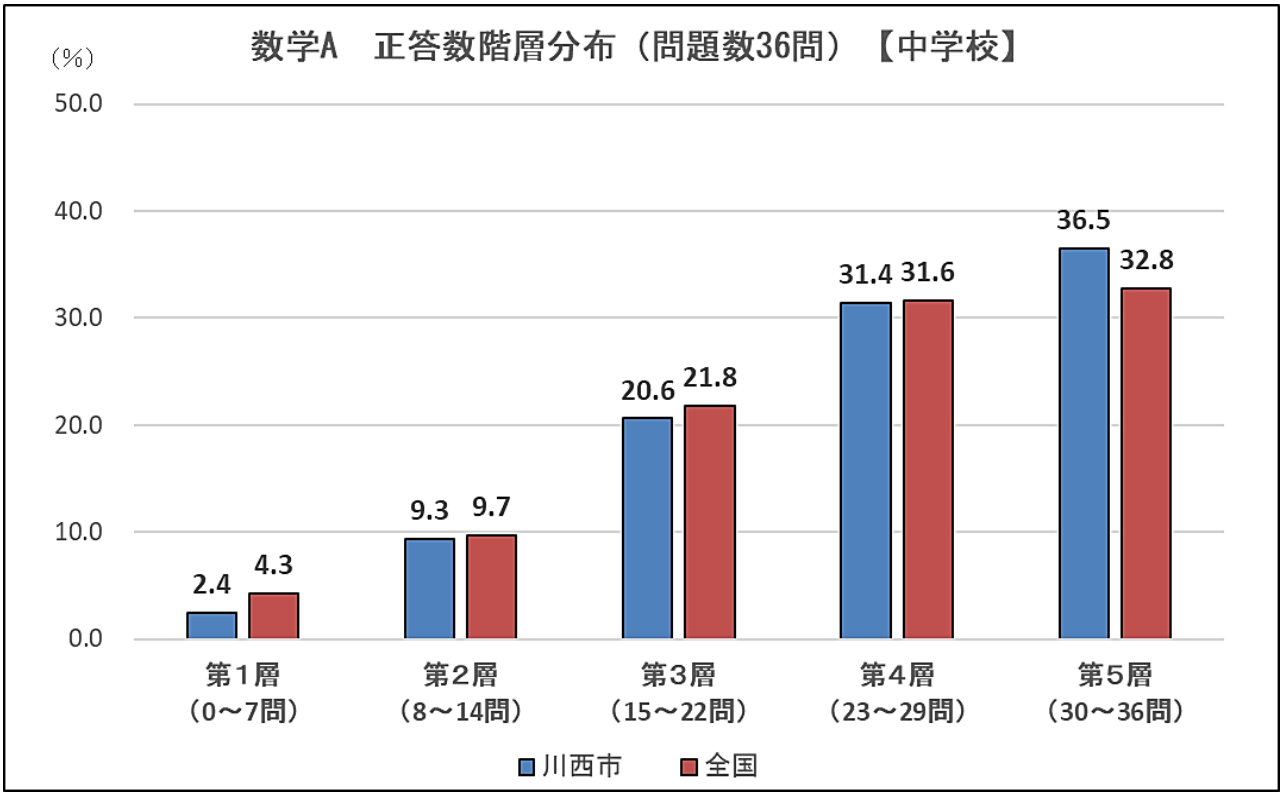


【国語 B】

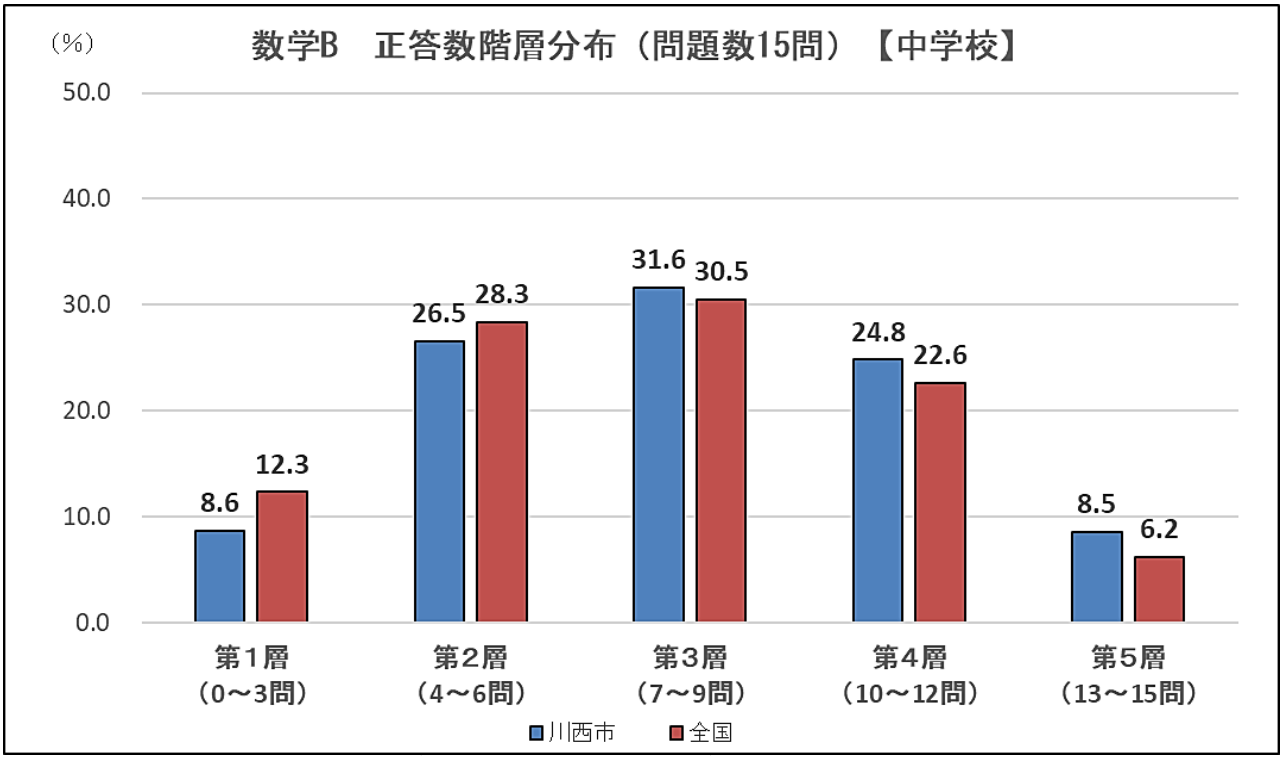


国語 A・B ともに、第１層、第２層が少なく、第４層、第５層の上位層が厚い理想的な分布状況である。この状況を継続させるとともに、新学習指導要領がめざす「主体的・対話的で深い学び」の基盤をさらに強化することにより、全体的な上位層への移行をめざす必要がある。

【数学 A】



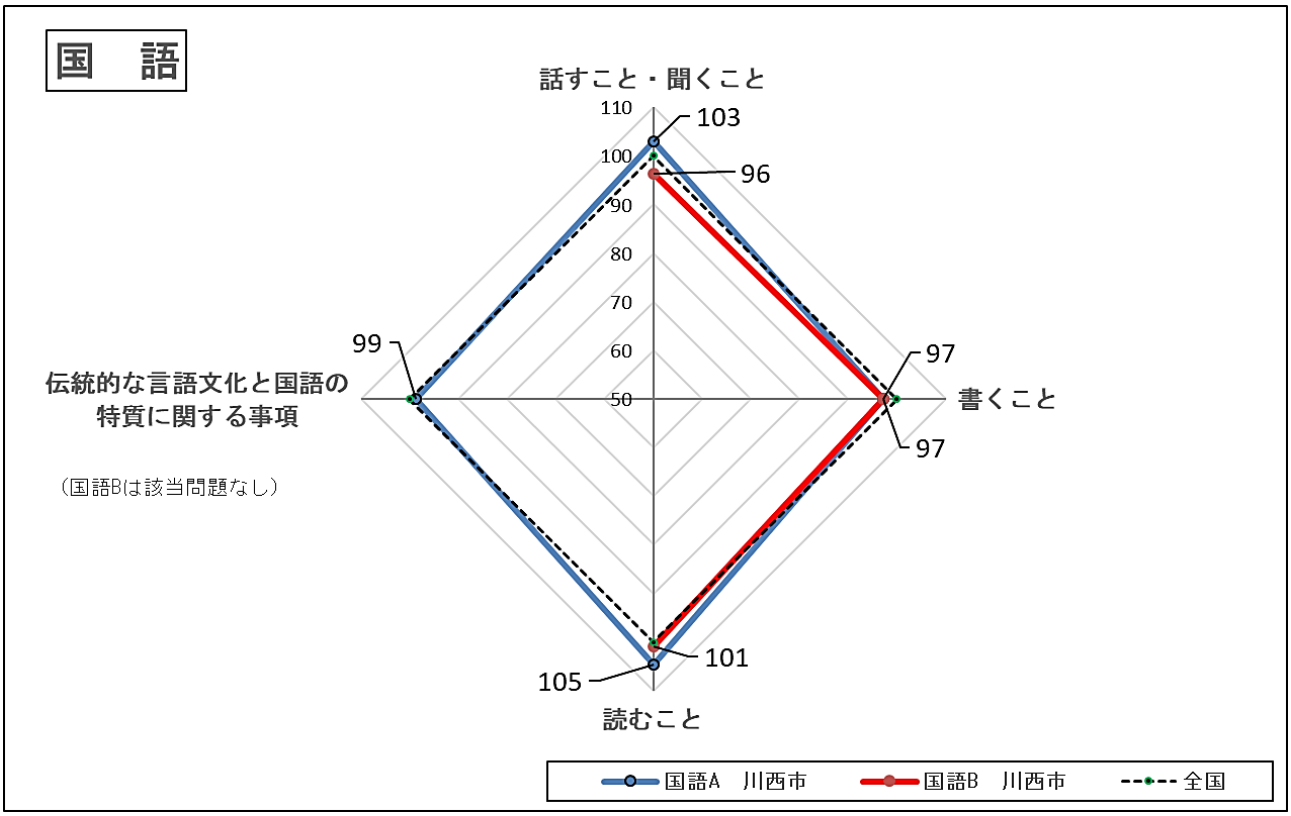
【数学 B】

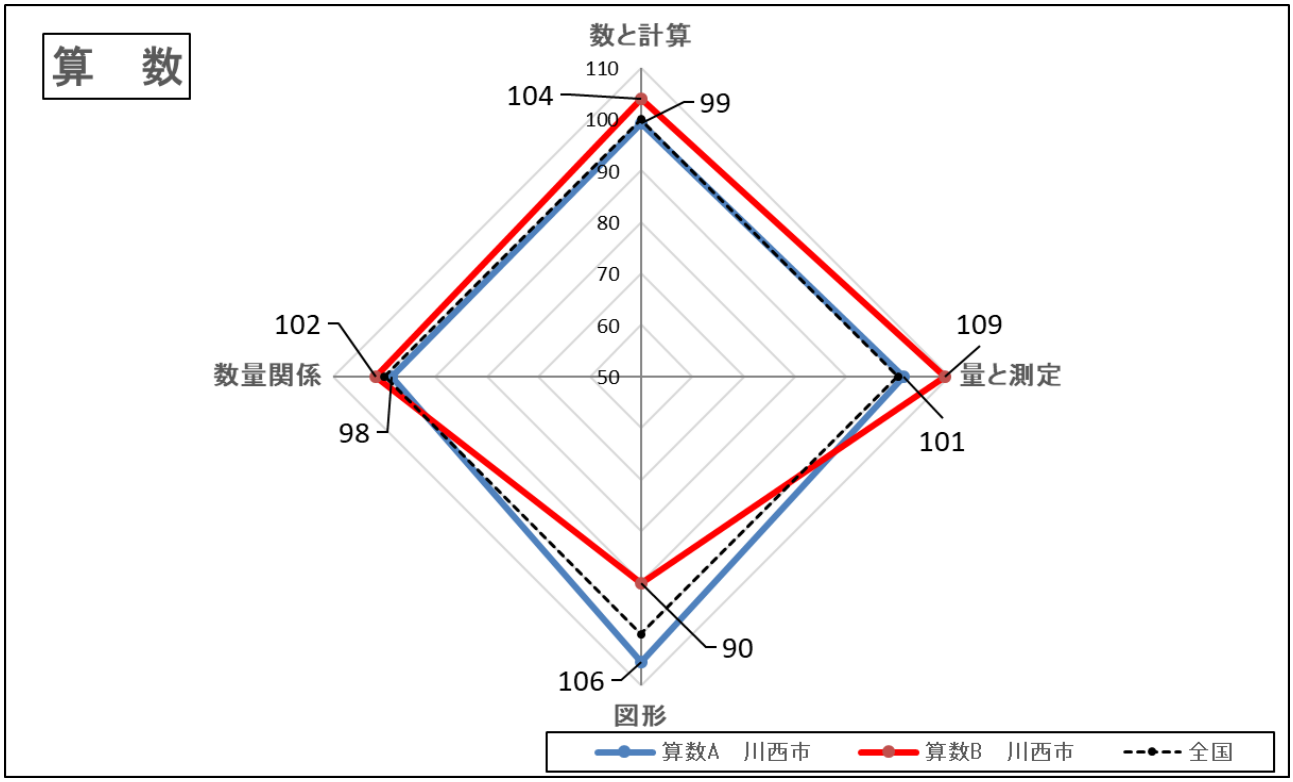


国語同様、数学 A･B ともに、第１層、第２層が少なく、第４層、第５層の上位層が厚い、理想的な分布状況である。この状況を継続させるとともに、新学習指導要領がめざす「主体的・対話的で深い学び」の基盤をさらに強化することにより、全体的な上位層への移行をめざす必要がある。

（4）学習指導要領の領域別平均正答率

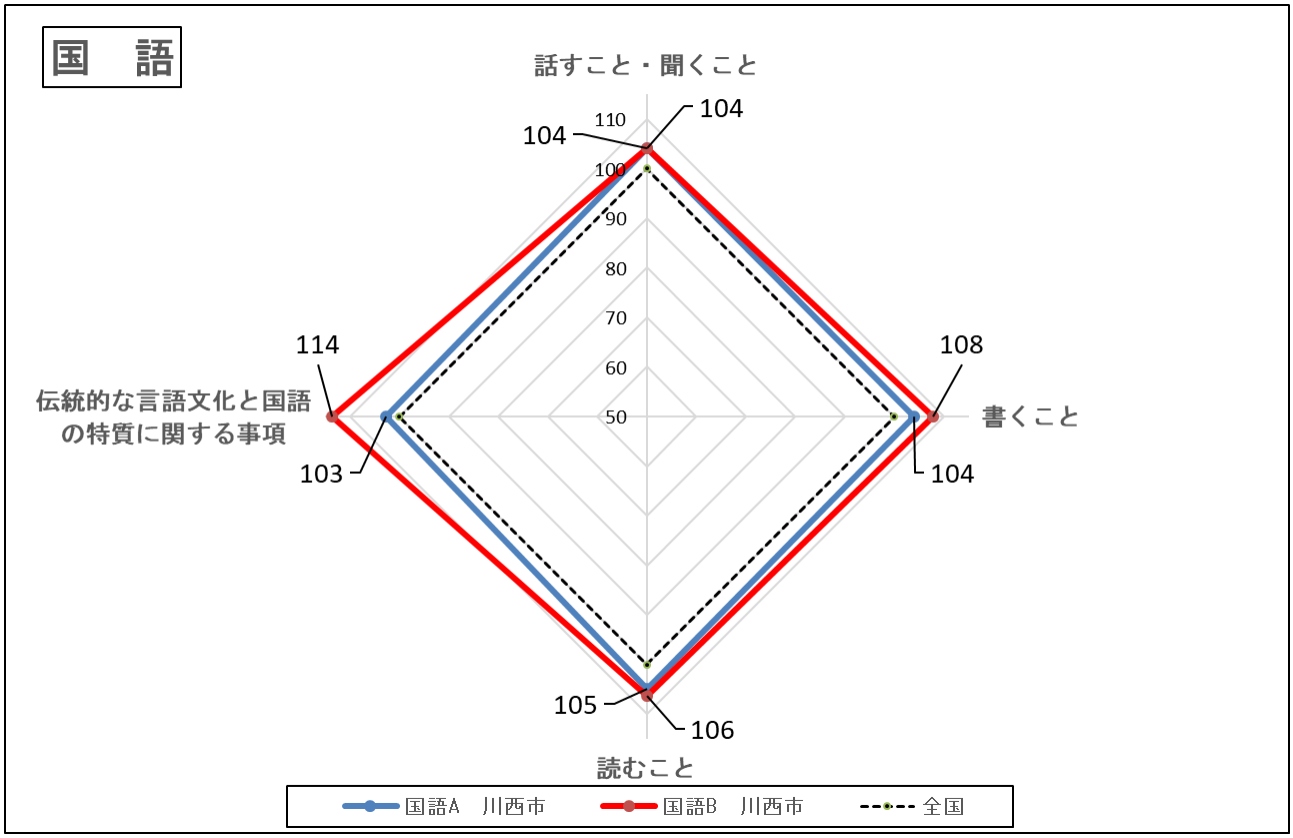
【小学校】

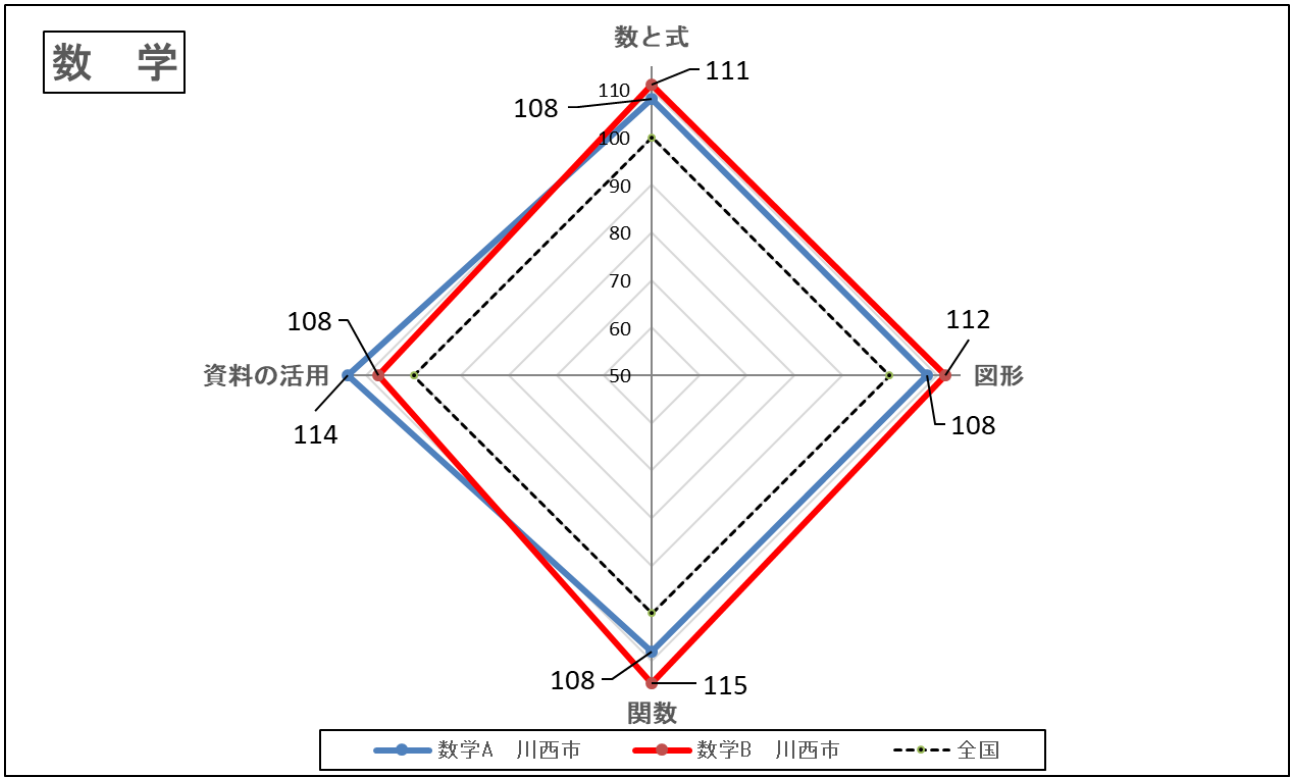




国語を通して「話すこと・聞くこと」「書くこと」についてやや弱さがみられる。
算数Ｂ「図形」領域がやや低いが、設問の特徴として「数量関係」領域の傾向が強い。
示された割合を基に、基準量と比較量の関係を捉えることが課題である。

【中学校】





各領域ともに、全国を上回っている。
これから求められる未知の状況にも対応できる能力の育成をめざすためには、情報を分析し活用する学習は重要になってくる。数学「資料の活用」領域を活かしながら取り組みを進めていくことが効果的である。

国語（小学校）

◆　手紙の構成を理解し、後付けを書くこと　【A2 二】　（書くこと）

「前文」「本文」「文末」「後付け」といった手紙全体の構成や、「後付け」における署名と宛て名の位置関係といった手紙の基本的な形式について学習する際、「宛て名を最終行の上に書くことで相手への敬意を示すことにつながる」など、手紙のもつ意味についての理解も重要である。

◆　目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くこと　【B2 三】　（書くこと）

収集した情報を整理するためには、共通点や相違点に着目したり、段落ごとに見出しを付けるといった手立て（＝工夫）を身につけることが大切である。その際、資料から根拠となる理由を取り上げたり、分量を制限するなど条件にそってまとめるといった学習活動を合わせることが効果的である。

◆　目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す（書く）こと　【B1 三】　（話すこと・聞くこと）（書くこと）

目的や意図を明確にすることが必要である。本設問でみると、目的は「日本語を学んでいる外国の人たちに、日本の文化などを紹介すること」である。そのために、資料や友達の助言を参考にして自分のスピーチを見直し改善（＝工夫する）し、伝える相手を意識（＝場に応じる）し、「外国の人たちに「折り紙」の魅力を伝えたい」という自分の考えを伝える活動となる。改善にむけては、「工夫」や「場に応じる」はどういうことかについて、具体的事例を活用したり、時には一般化しながら理解することが大切である。

算数（小学校）

◆　身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述すること　【B5（2)】　（図形）（数量関係）

日常生活の事象を、算数で学習したことを活用して考える問題である。割合を示す表現には、「Aを基にしたBの割合」や「Aの□倍がB」などがある。これらの表現から、割合を表す数を見いだし、AとBの関係を捉え、Aが基準量であり、Bが比較量であることを判断できるようにすることが大切である。

指導に当たっては、図や数直線などに表すことで、基準量・比較量・割合を捉え、それらの関係を的確に式に表す活動が効果的である。その際、比較量と基準量の関係から割合を求めたり、比較量と割合の関係から基準量を求めたりする場面において、問題の中の未知の数量を□などとして、「基準量×割合＝比較量」という言葉の式に表すことから考えるなどの学習活動を通して、答えだけでなく、解答にいたる経緯を言葉や式を用いて記述する活動を取り入れることが大切である。

国語（中学校）

◆　相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話すこと【B2（㈢)】　（話すこと・聞くこと）（書くこと）

「お互いのスピーチをよりよくするために聞く」という意識を大切にし、話の構成や展開はどうか、相手や場を意識して話をしているかなど、聞き手と話し手の両方の立場から検討するなどが大切である。話の内容や話し方の評価とあわせ、互いに質問したり改善点について助言し合ったりする学習活動も効果的である。

数学（中学校）

◆　資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること
【B5（3)】　（資料の活用）

分布の形や目的によって平均値、中央値、最頻値を使い分けることができなかったり、それらの意味を混同して捉えていることが要因として挙げられる。目的に応じて収集した資料を度数分布図やヒストグラムの表して資料の分布の様子を捉えた上で、資料の傾向を表す代表値を検討し、それを基に資料の傾向を判断できるようにすることが重要である。

Ⅳ．平成 26 年度と平成 29 年度の調査結果を生かした追跡調査

(1) 教科の平均正答率の比較

【平成 26 年度小学校 6 年生】

学力の状況	平均正答率（%）		
	川西市	全国	全国との差
国語A	72．0	72．9	−0．9
国語B	53．2	55．5	−2．3
算数A	77．1	78．1	−1．0
算数B	57．6	58．2	−0．6

【平成 29 年度中学校 3 年生】

学力の状況	平均正答率（%）		
	川西市	全国	全国との差
国語A	80	77．4	2．6
国語B	76	72．2	3．8
数学A	70	64．6	5．4
数学B	54	48．1	5．9

＊文部科学省では、平成 29 年度各市町の平均正答率については、整数値で公表している

【川西市と全国との平均正答率の差の変化（H26 年度小学校 6 年生と H29 年度中学校 3 年生）】

同一児童生徒である平成 26 年度小学校 6 年生と平成 29 年度中学校 3 年生の川西市と全国との平均正答率の差を比較してみる。

国語Ａ：平成 26 年度小学校 6 年生、川西市と全国の平均正答率の差が-0.9%から、平成 29 年度中学校 3 年生 2.6%と上昇している。

国語Ｂ：平成 26 年度小学校 6 年生、川西市と全国の平均正答率の差が-2.3%から、平成 29 年度中学校 3 年生 3.8%と上昇している。

算数Ａ・数学Ａ：平成 26 年度小学校 6 年生、川西市と全国の平均正答率の差が-1.0%から、平成 29 年度中学校 3 年生 5.4%と上昇している。

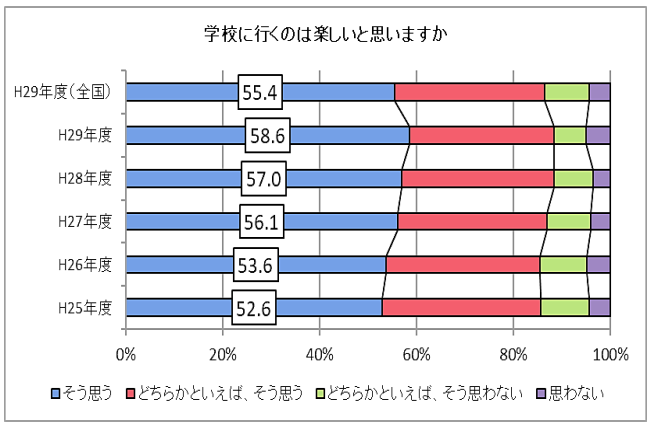
算数Ｂ・数学Ｂ：平成 26 年度小学校 6 年生、川西市と全国の平均正答率の差が-0.6%から、平成 29 年度中学校 3 年生 5.9%と上昇している。

以上のことから、一定の向上がみうけられ、義務教育最終学年での結果に結びつけることができる体制ができている。

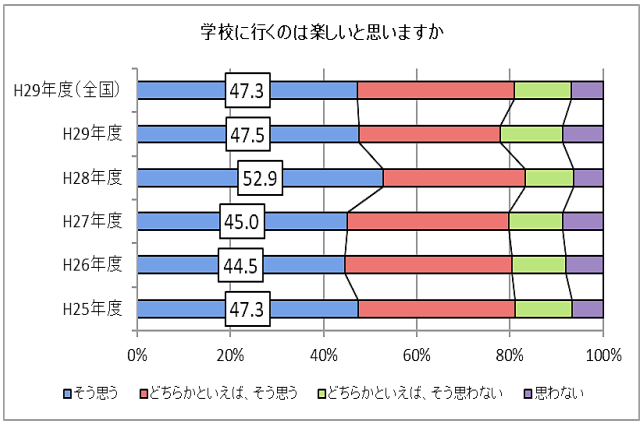
(2) 質問紙調査結果の比較

1）質問紙項目：「学校に行くのは楽しいと思いますか」

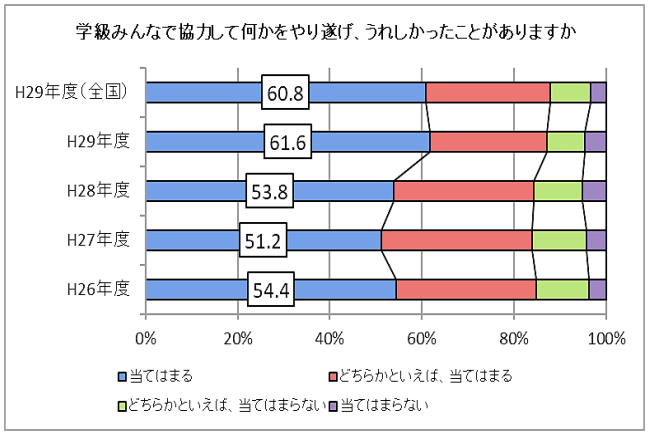
【小学校】

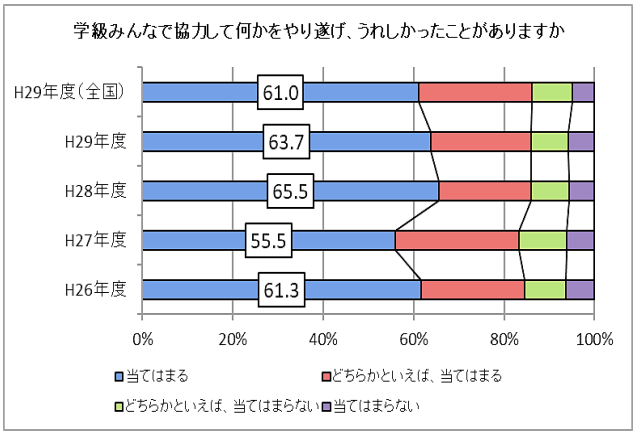


【中学校】



2）質問紙項目：「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」





学校に行くのが楽しいと思いますか　（積極的肯定群）

	H26 小学校	H29 中学校
川西市	53.6	47.5
全国	52.6	47.3
全国との差	1.0	0.2

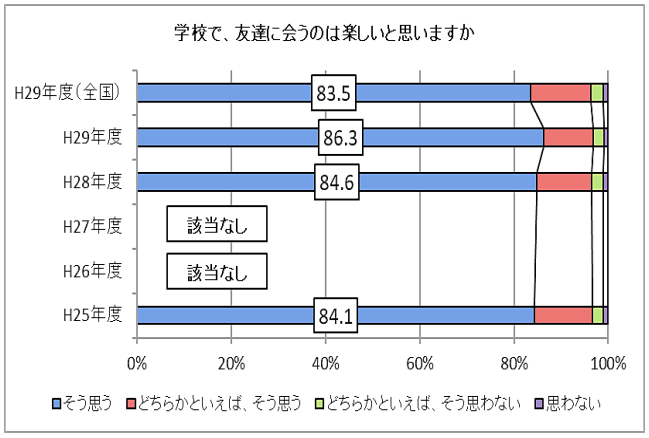
学級みんなで協力して何かをやり遂げ，うれしかったことがありますか　（積極的肯定群）

	H26 小学校	H29 中学校
川西市	54.4	63.7
全国	56.9	61.0
全国との差	−2.5	2.7

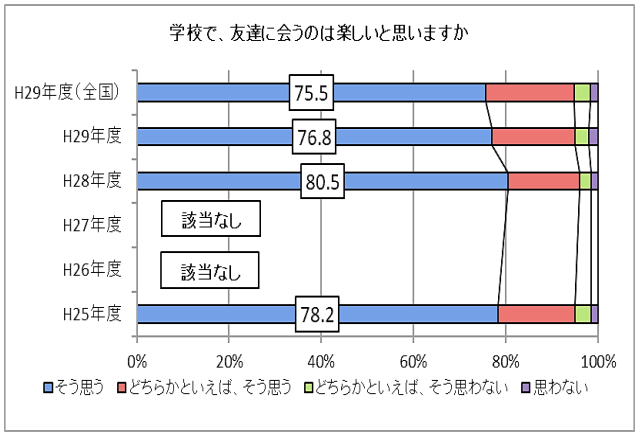
小学校段階での意識が中学校生活で逓減していく傾向は全国的な特徴であるが、川西市において「学校へ行くのが楽しい」質問項目の積極的肯定（当てはまる）割合は、全国と比較すると高い。小学校段階で、授業や様々な体験学習を通じて学校に行くことの楽しさを醸成できていることが、うまく中学校に引き継がれていることが分かる。このことが中学校における「すべての生徒にとっての『居場所づくり』、『絆づくり』」を支えている。また、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」については、平成 26 年度小学校 6 年生が中学校 3 年生となり、学習・生活集団である「学級」での活動について、喜びを感じている生徒が多くなっている。集団で考えやりとげていくといった社会性が育っており、「社会や世界に向き関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力」の育成に結果につながっている。

３）質問紙項目：「学校で、友達に会うのは楽しいですか」

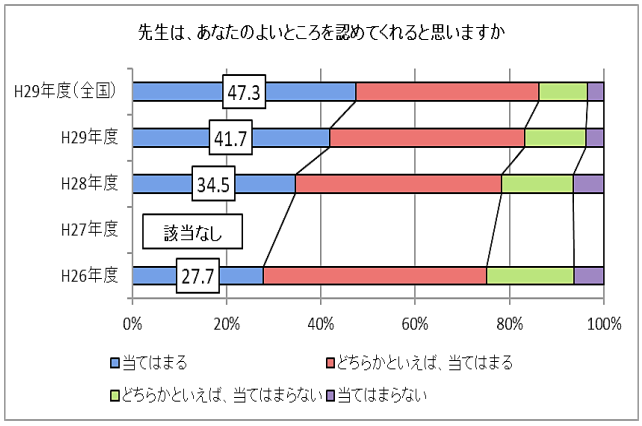
【小学校】

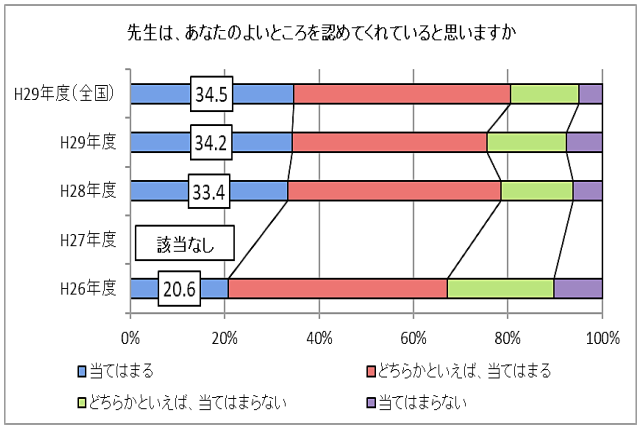


【中学校】



４）質問紙項目：「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」





文部科学省では、児童生徒同士の関係、教師と児童生徒の関係性が学力向上にも関係があると考えていることが、上記質問項目から伺える。

学習内容の高度化や人間関係の難しさから、小学校から中学校において肯定的な割合は逓減する傾向がある中、川西市は全国と比較すると「友人と会うのは楽しい」と回答する割合は全国よりも高い。このことは、学校生活を支える大きな要因となっている。

教師と児童生徒の関係性については、新たに質問が設定された平成 26 年度から小学校は 14.0%、中学校は 13.6%、小中学校とも同程度、積極的肯定（当てはまる）の割合が上昇している。小中学校共通で、教職員が子どもたちのよさを積極的に見とろうとしていることが分かる。また、「先生は、分からないところを分かるまで教えてくれますか」という質問項目に対しても、中学校では全国を上回るなど、学習について分からないところを分かるまで指導する丁寧さを子どもたちが感じていることも伺える。

子どもたち同士の関わり、教職員の子ども達への丁寧な関わり及び落ち着いた学校環境の下で学習することは、よき人間関係の中で学びを深めることにつながる。

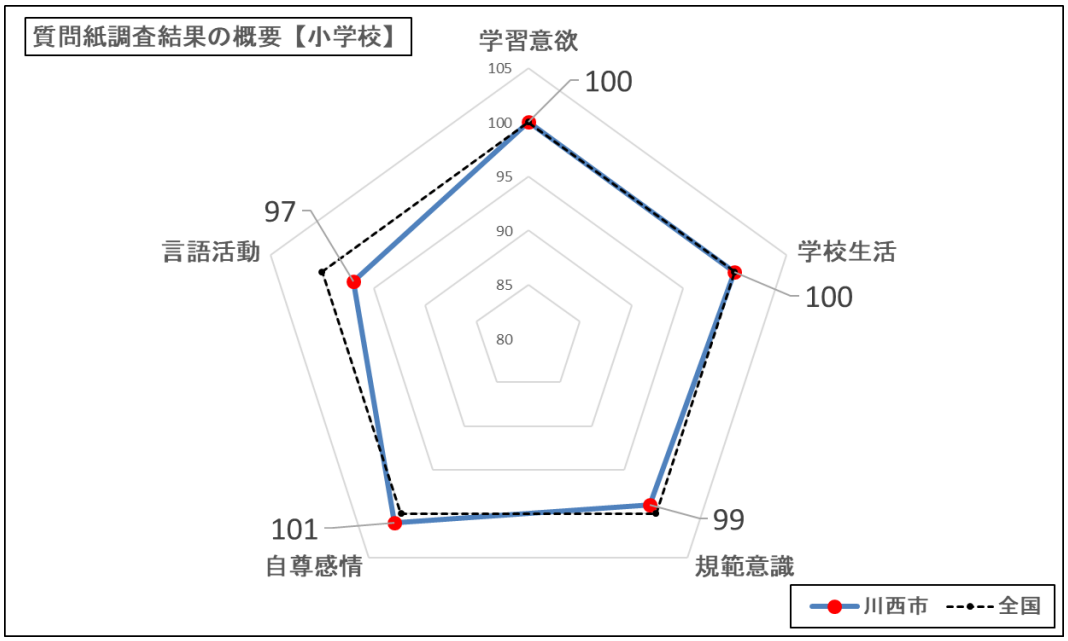
Ⅴ．平成 29 年度学習環境や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査結果

（1）学習環境、学校生活等に関する平成 29 年度質問紙調査結果概要

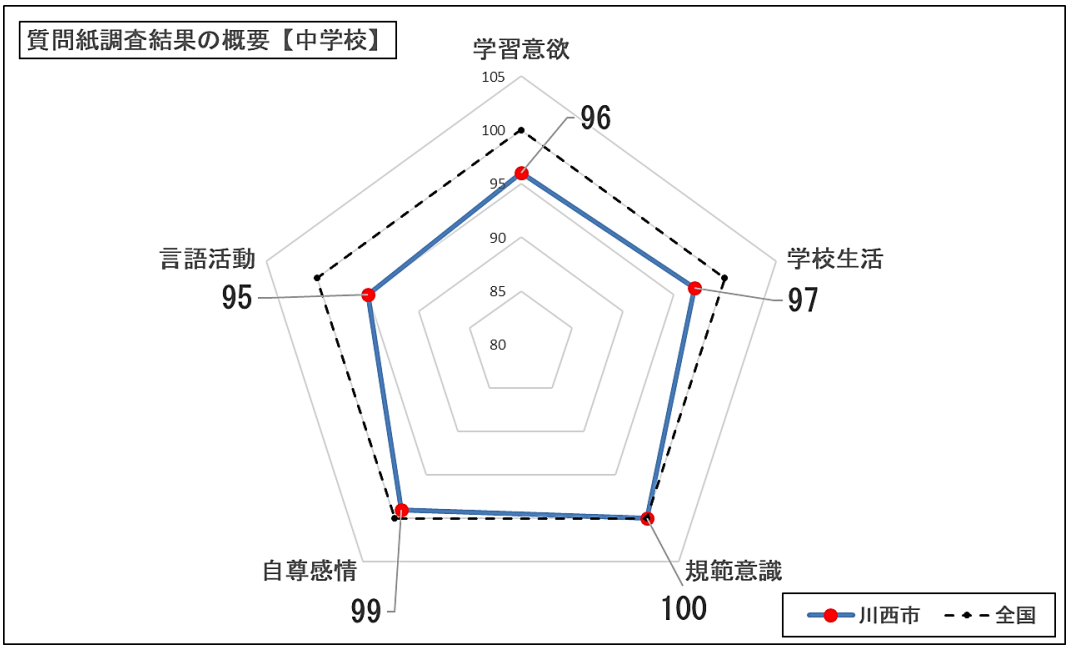
※グラフの数値は、該当する設問項目の肯定的回答割合の合計を平均し、全国の平均値を 100 とした場合の川西市の平均値

【小学校】



「学校生活」「学習意欲」については一定の水準にあり、小学校段階において「知りたい」「分かりたい」という学習に取り組む意欲や学校に行くことの楽しさが大切にされていることが分かる。また、「自尊感情」においては全国より高い状況であり、健全な成長過程をたどっていることが分かる。

【中学校】



「規範意識」は一定の水準にあり、中学校で取り組まれている「安心感」のある学校づくりが大切にされ、学習環境の安定の要因になっている。「学習意欲」「学校生活」「自尊感情」は、小学校から中学校になるにつれ全国的に逓減するが、川西市でも逓減をどう緩やかにしていくか、課題である。

「言語活動」は、小学校、中学校ともやや低くなっている。学力の育成にむけ、「主体的・対話的で深い学び」をもとにした言語活動の取り組みの強化が求められる。

児童質問紙評価項目一覧

22問

小学校	質問番号	質問事項	肯定的割合（川西市）
学習意欲（4）	70	国語の勉強は大切だと思いますか	91.0
	71	国語の授業の内容はよく分かりますか	81.1
	79	算数の勉強は大切だと思いますか	91.7
	80	算数の授業の内容はよく分かりますか	80.9
言語活動（5）	8	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか	94.7
	57	５年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	84.2
	55	５年生までに受けた授業では，先生から示される課題や，学級やグループの中で，自分たちで立てた課題に対して，自ら考え，自分から取り組んでいたと思いますか	74.9
	60	５年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか	59.1
	68	学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思いますか	64.0
学校生活（5）	33	学校に行くのは楽しいと思いますか	88.4
	34	学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか	96.7
	35	学校で、好きな授業がありますか	92.3
	37	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか	86.9
	38	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	83.0
規範意識（4）	49	学校のきまりを守っていますか	89.8
	50	友達との約束を守っていますか	96.6
	51	人が困っているときは、進んで助けていますか	84.4
	52	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.1
自尊感情（4）	4	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか	95.7
	5	難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか	77.7
	6	自分には、よいところがあると思いますか	80.1
	53	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	93.4

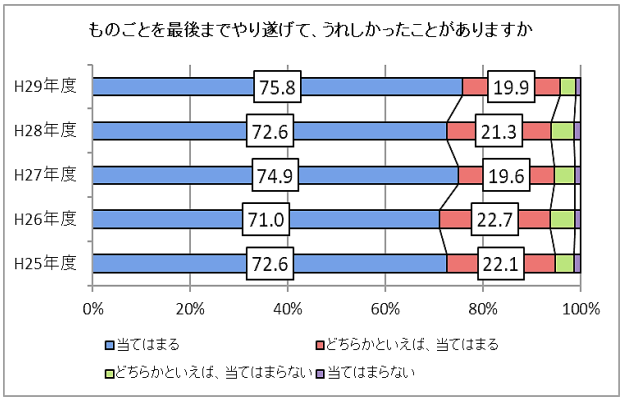
生徒質問紙評価項目一覧

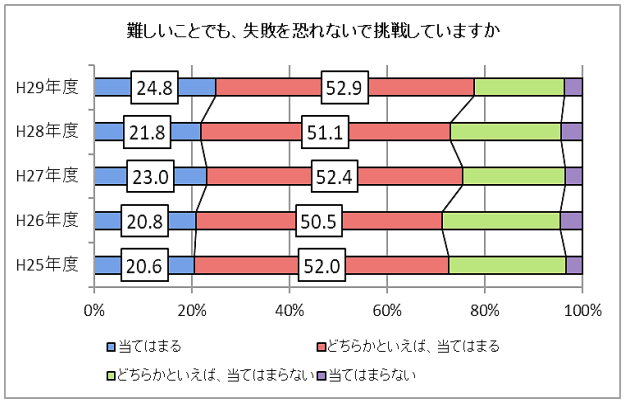
22問

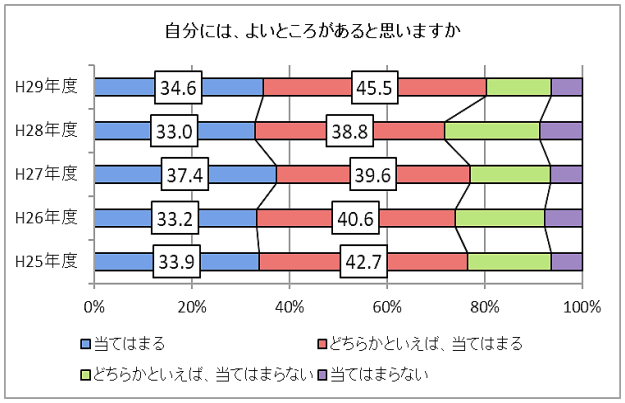
中学校	質問番号	質問事項	肯定的割合（川西市）
学習意欲（4）	72	国語の勉強は大切だと思いますか	83.2
	73	国語の授業の内容はよく分かりますか	72.6
	81	数学の勉強は大切だと思いますか	76.6
	82	数学の授業の内容はよく分かりますか	70.1
言語活動（5）	8	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか	93.0
	59	１、２年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	80.3
	57	１，２年生のときに受けた授業では，先生から示される課題や，学級やグループの中で，自分たちで立てた課題に対して，自ら考え，自分から取り組んでいたと思いますか	73.7
	62	１，２年生のときに受けた授業で，自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか	50.8
	70	生徒の間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思いますか	59.1
学校生活（5）	35	学校に行くのは楽しいと思いますか	77.9
	36	学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか	94.9
	37	学校で、好きな授業がありますか	74.3
	39	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか	85.8
	40	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	75.2
規範意識（4）	51	学校の規則を守っていますか	95.4
	52	友達との約束を守っていますか	97.8
	53	人が困っているときは、進んで助けていますか	83.4
	54	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	93.2
自尊感情（4）	4	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか	95.0
	5	難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか	69.9
	6	自分には、よいところがあると思いますか	68.8
	55	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	91.0

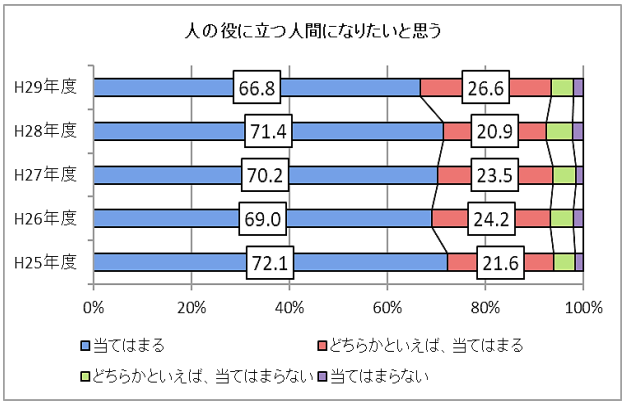
自尊感情と規範意識の高まり

【小学校】

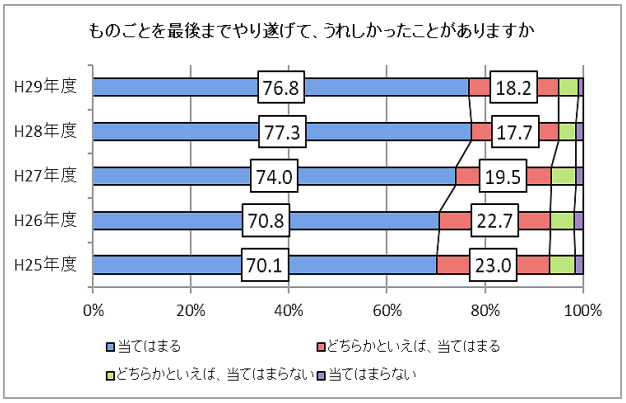


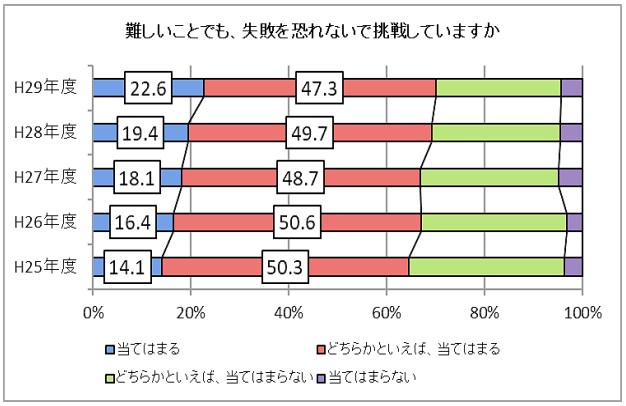


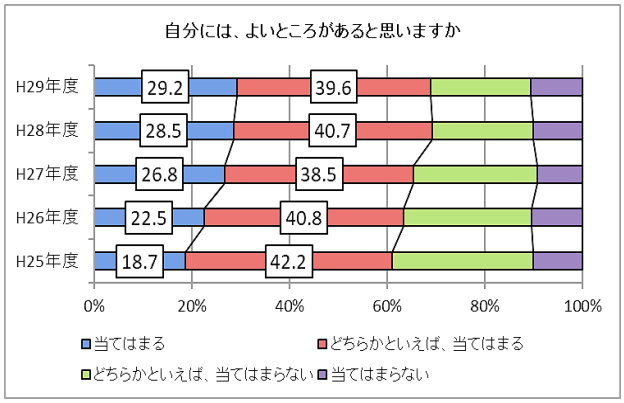


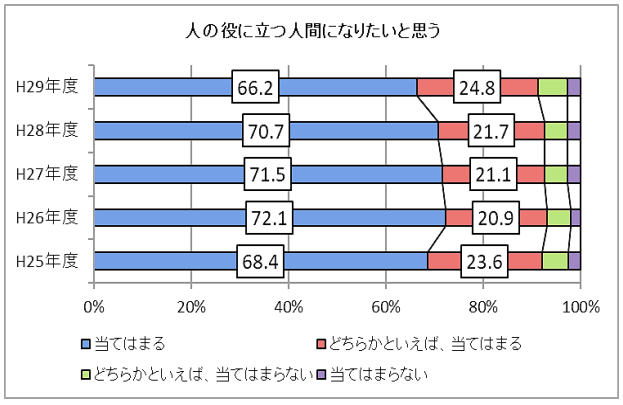


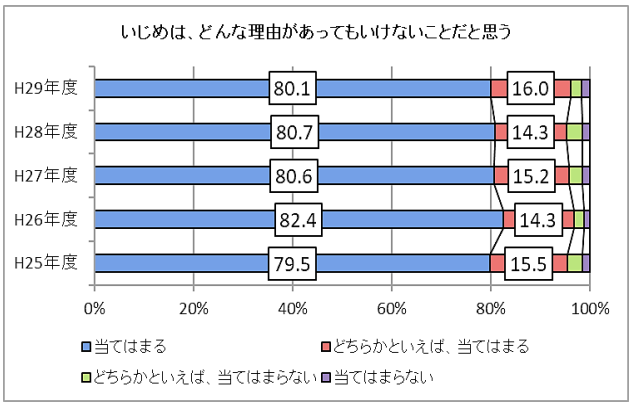
【中学校】

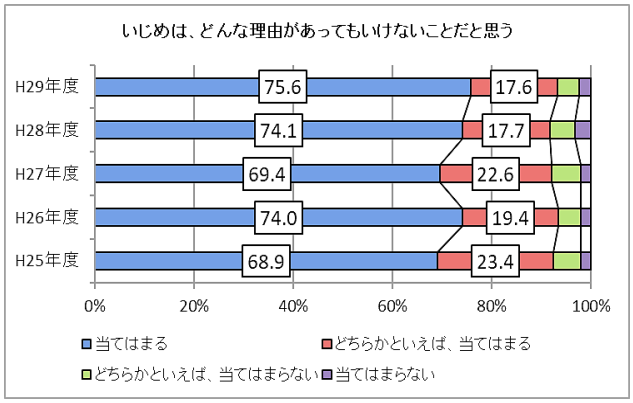


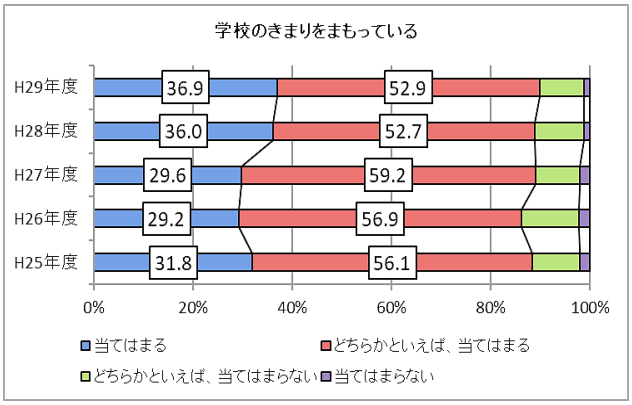


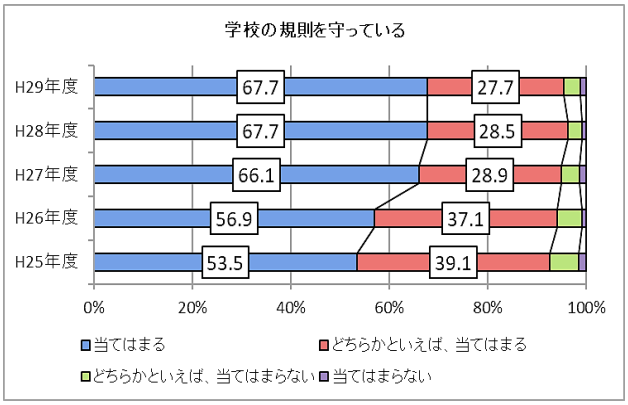












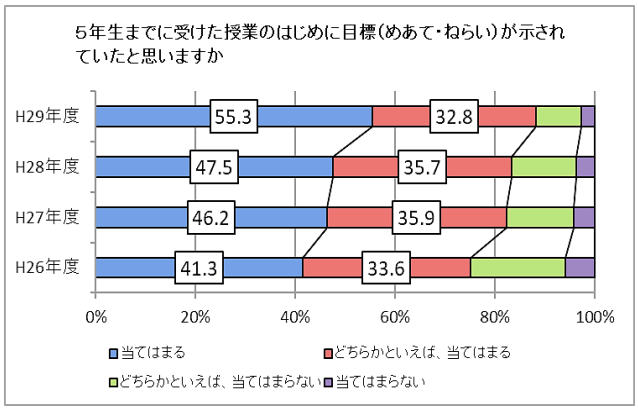
川西市の自尊感情と規範意識に関する質問項目をみると、小学校、中学校ともに一定の水準を保てていること及び上昇傾向にあるのは、本市の大きな特徴である。思春期にさしかかる中学生において、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」、「自分にはよいところがあると思う」、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」といった内容において、平成 25 年度から向上していることは、学校の取り組みの成果である。心の安定は、子どもたち同士互いに支え合い、励まし合う生活集団の基礎となるとともに、「確かな学力」を育む学習集団への変容にもつながると考えられることから、引き続き、子どもたちの自尊感情と規範意識を育む活動の充実を図ることが大切である。

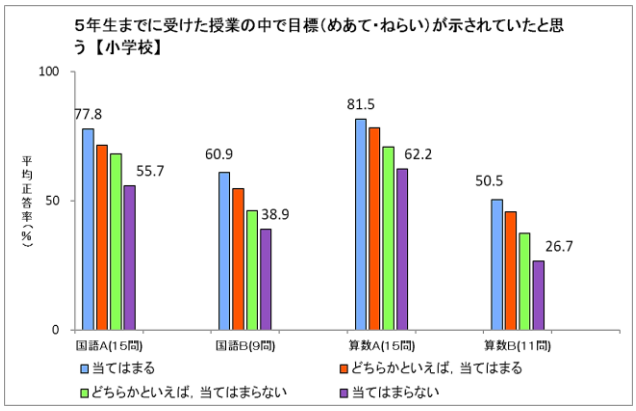
（☛Ｐ34　川西市教育委員会）（☛Ｐ35　学校）（☛Ｐ35　家庭）

（2）学習環境や生活習慣等に関する質問紙調査結果経年比較並びに平成 29 年度質問紙調査結果と学力のクロス分析

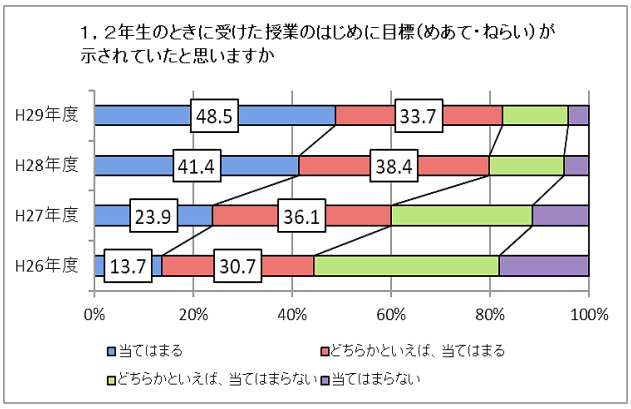
1 言語活動の充実（主体的・対話的で深い学びに向けて）

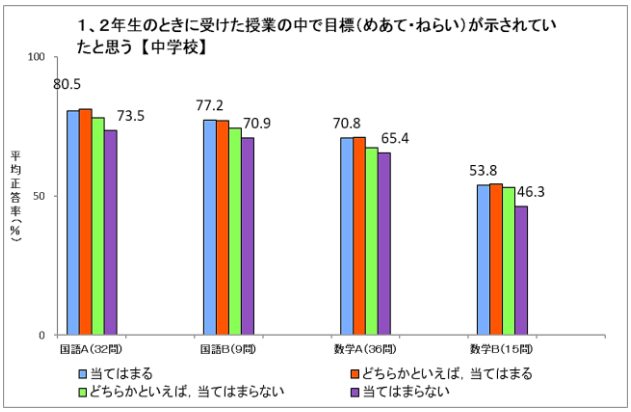
【小学校】

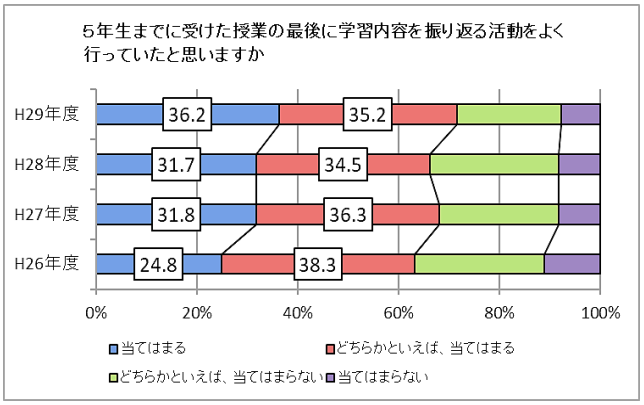


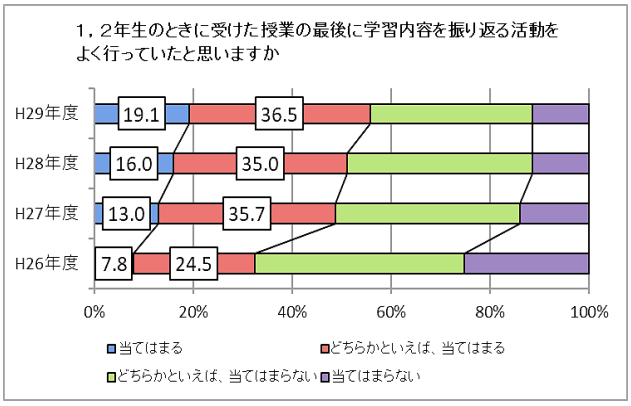


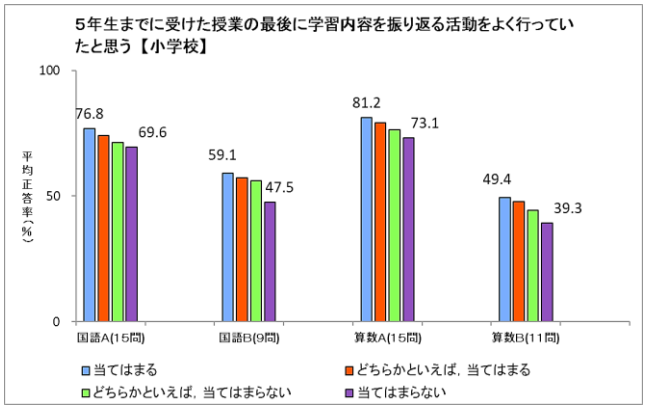
【中学校】

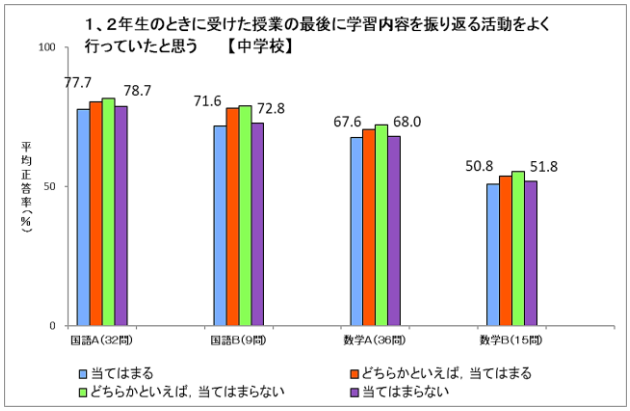




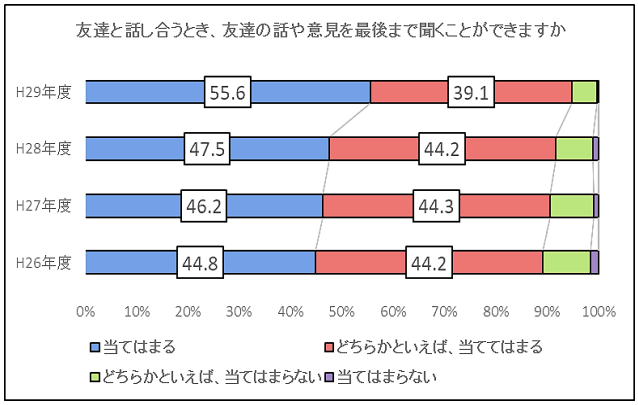


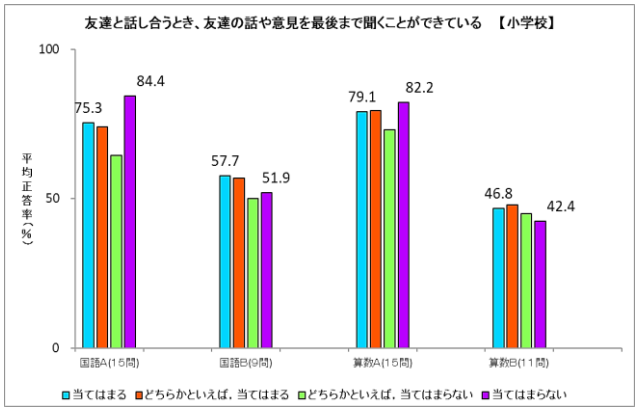


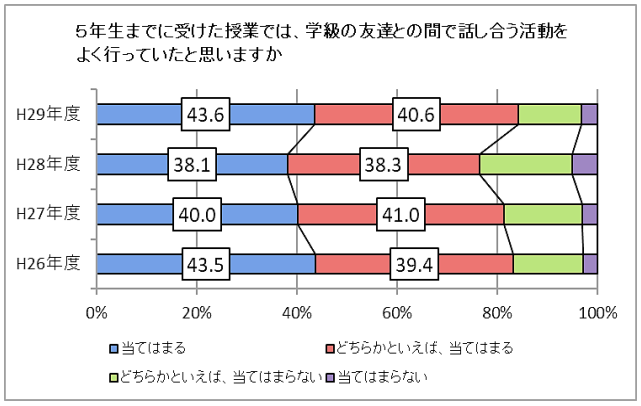


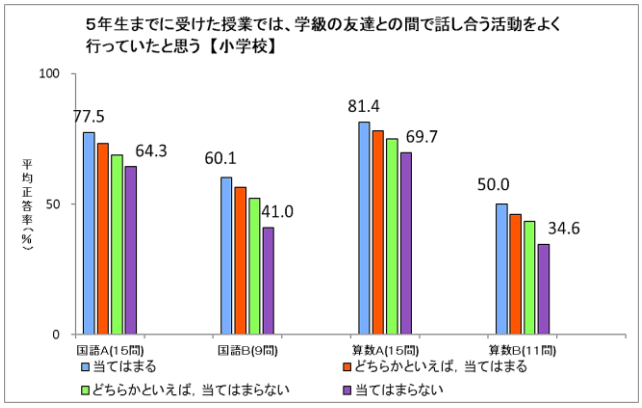


【小学校】

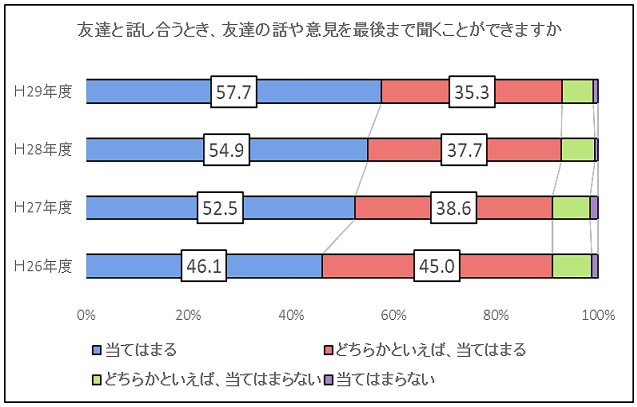

友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか
H29年度
H28年度
H27年度
H26年度
55.6
39.1
47.5
44.2
46.2
44.3
44.8
44.2
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
当てはまる
どちらかといえば、当ててはまる
どちらかといえば、当てはまらない
当てはまらない

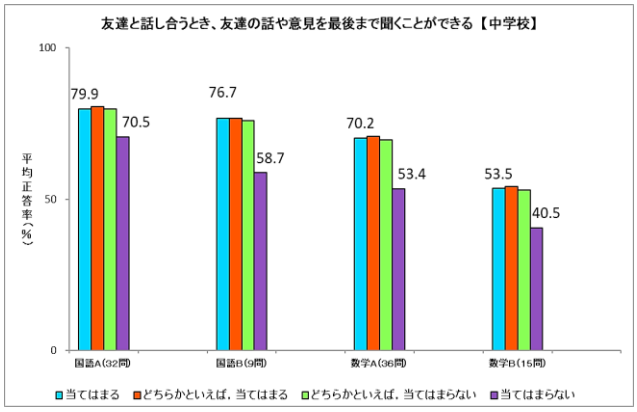

友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている　【小学校】
平均正答率（%）
100
50
0
75.3
84.4
57.7
51.9
79.1
82.2
46.8
42.4
国語A(15問)
国語B(9問)
算数A(15問)
算数B(11問)
当てはまる
どちらかといえば，当てはまる
どちらかといえば，当てはまらない
当てはまらない

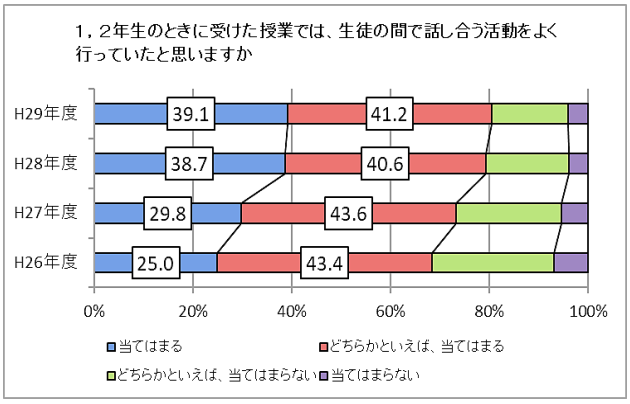

５年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動を
よく行っていたと思いますか
H29年度
H28年度
H27年度
H26年度
43.6
40.6
38.1
38.3
40.0
41.0
43.5
39.4
0%
20%
40%
60%
80%
100%
当てはまる
どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない
当てはまらない

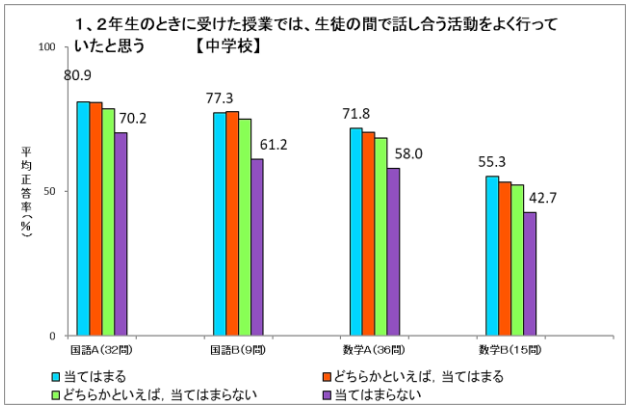

５年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく
行っていたと思う【小学校】
平均正答率（%）
100
50
0
77.5
64.3
60.1
41.0
81.4
69.7
50.0
34.6
国語A(15問)
国語B(9問)
算数A(15問)
算数B(11問)
当てはまる
どちらかといえば，当てはまる
どちらかといえば，当てはまらない
当てはまらない

【中学校】

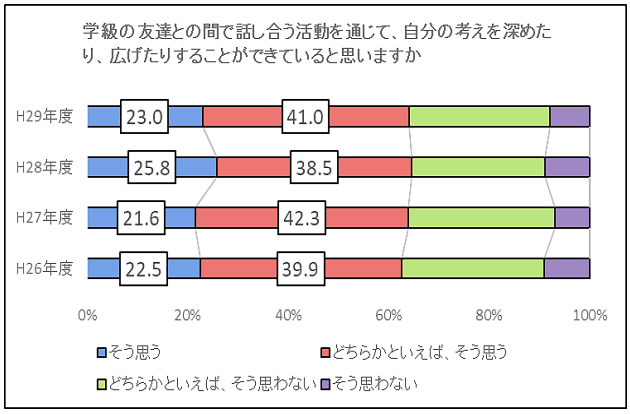

友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか
H29年度
H28年度
H27年度
H26年度
57.7
35.3
54.9
37.7
52.5
38.6
46.1
45.0
0%
20%
40%
60%
80%
100%
当てはまる
どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない
当てはまらない

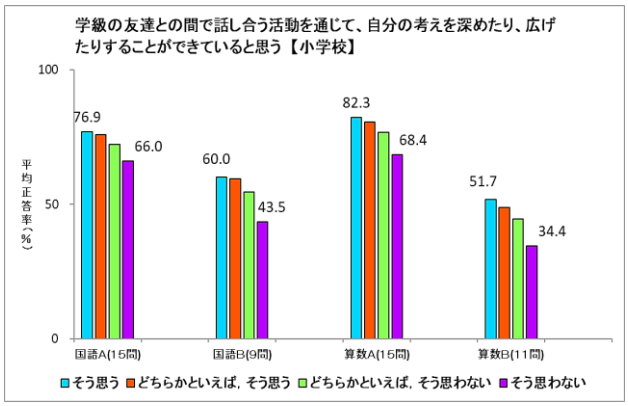

友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる【中学校】
平均正答率（%）
100
50
0
79.9
70.5
76.7
58.7
70.2
53.4
53.5
40.5
国語A(32問)
国語B(9問)
数学A(36問)
数学B(15問)
当てはまる
どちらかといえば，当てはまる
どちらかといえば，当てはまらない
当てはまらない


１，２年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく
行っていたと思いますか
H29年度
H28年度
H27年度
H26年度
39.1
41.2
38.7
40.6
29.8
43.6
25.0
43.4
0%
20%
40%
60%
80%
100%
当てはまる
どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない
当てはまらない

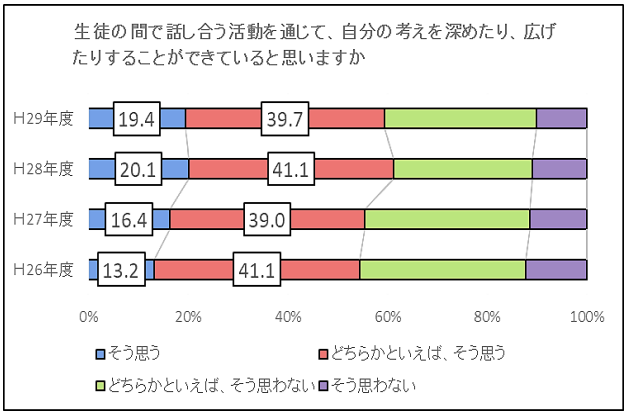

１，２年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行って
いたと思う　【中学校】
平均正答率（%）
100
50
0
80.9
70.2
77.3
61.2
71.8
58.0
55.3
42.7
国語A(32問)
国語B(9問)
数学A(36問)
数学B(15問)
当てはまる
どちらかといえば，当てはまる
どちらかといえば，当てはまらない
当てはまらない

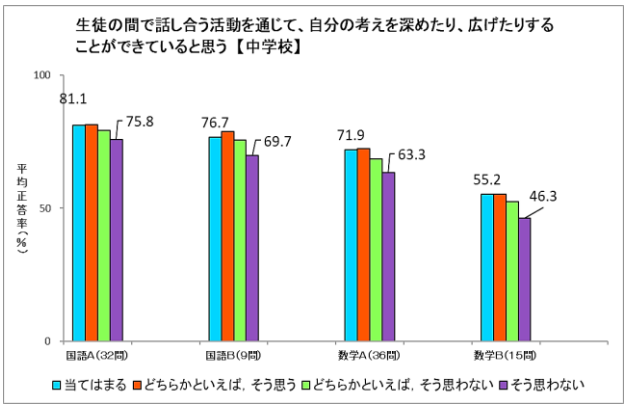
【小学校】

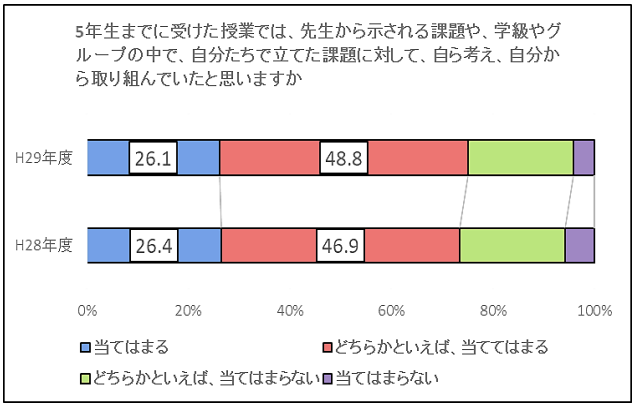

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか
H29年度
H28年度
H27年度
H26年度
23.0
41.0
25.8
38.5
21.6
42.3
22.5
39.9
0%
20%
40%
60%
80%
100%
そう思う
どちらかといえば、そう思う
どちらかといえば、そう思わない
そう思わない

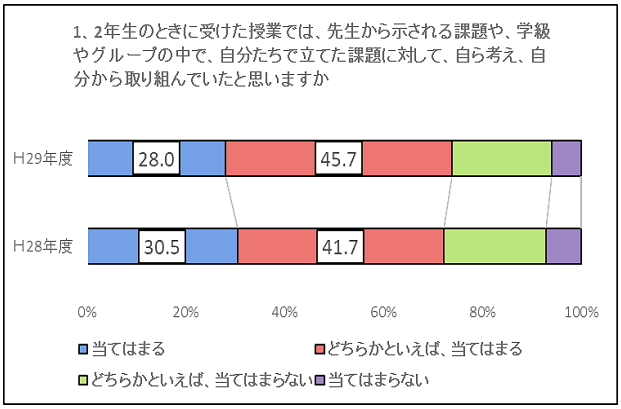

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う【小学校】
平均正答率（%）
100
50
0
76.9
66.0
60.0
43.5
82.3
68.4
51.7
34.4
国語A(15問)
国語B(9問)
算数A(15問)
算数B(11問)
そう思う
どちらかといえば，そう思う
どちらかといえば，そう思わない
そう思わない

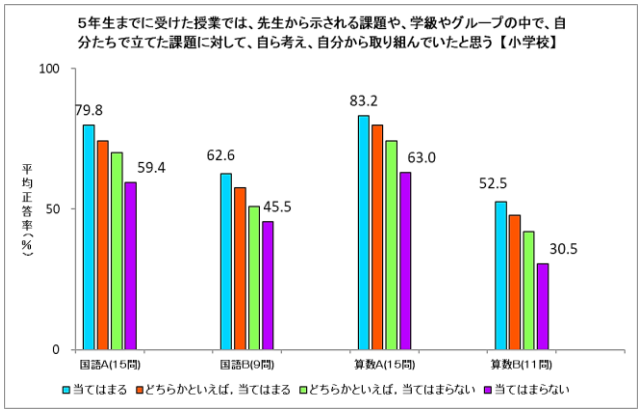
【中学校】

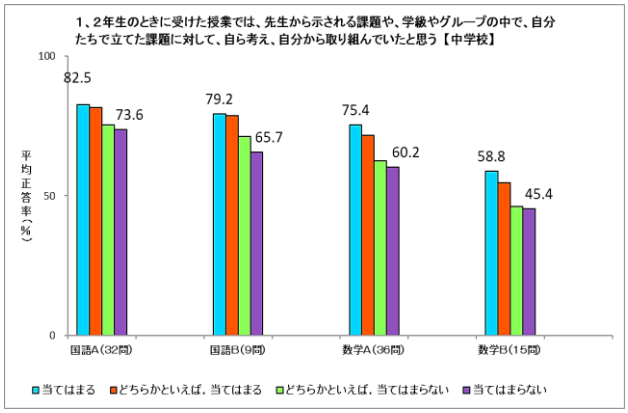

生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか
H29年度
H28年度
H27年度
H26年度
19.4
39.7
20.1
41.1
16.4
39.0
13.2
41.1
0%
20%
40%
60%
80%
100%
そう思う
どちらかといえば、そう思う
どちらかといえば、そう思わない
そう思わない


生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う【中学校】
平均正答率（%）
100
50
0
81.1
75.8
76.7
69.7
71.9
63.3
55.2
46.3
国語A(32問)
国語B(9問)
数学A(36問)
数学B(15問)
当てはまる
どちらかといえば，そう思う
どちらかといえば，そう思わない
そう思わない

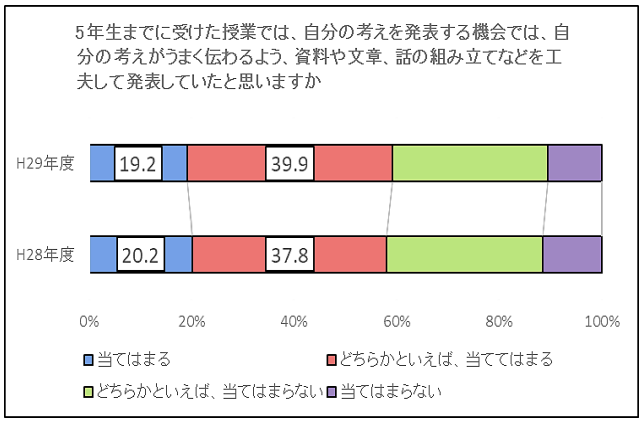

5年生までに受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか
H29年度
H28年度
26.1
48.8
26.4
46.9
0%
20%
40%
60%
80%
100%
当てはまる
どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない
当てはまらない


1、2年生のときに受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか
H29年度
H28年度
28.0
45.7
30.5
41.7
0%
20%
40%
60%
80%
100%
当てはまる
どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない
当てはまらない

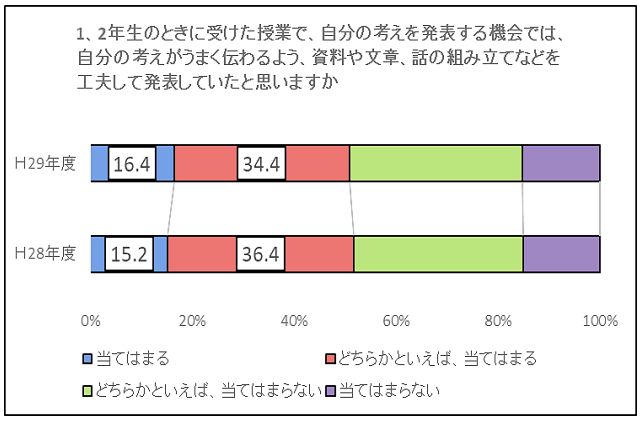

5年生までに受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う【小学校】
平均正答率（%）
100
50
0
79.8
59.4
62.6
45.5
83.2
63.0
52.5
30.5
国語A(15問)
国語B(9問)
算数A(15問)
算数B(11問)
当てはまる
どちらかといえば，当てはまる
どちらかといえば，当てはまらない
当てはまらない

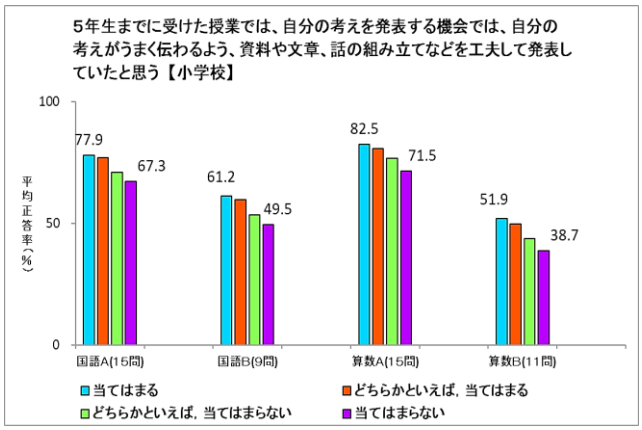

1、2年生のときに受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う【中学校】
平均正答率（%）
100
50
0
82.5
73.6
79.2
65.7
75.4
60.2
58.8
45.4
国語A(32問)
国語B(9問)
数学A(36問)
数学B(15問)
当てはまる
どちらかといえば，当てはまる
どちらかといえば，当てはまらない
当てはまらない

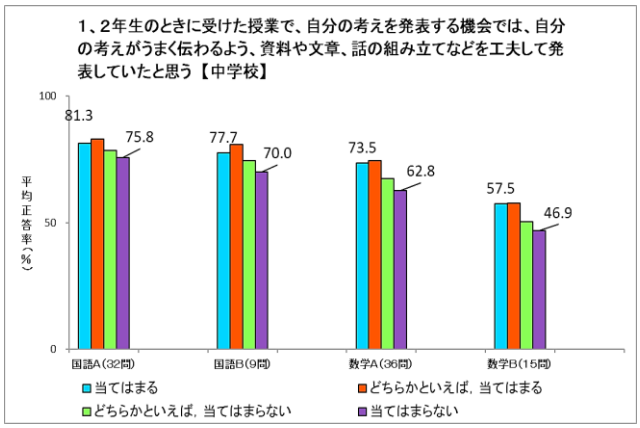
【小学校】



【中学校】







学ぶことに興味を持ち、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学習活動は主体的な学びの実現にむけて大切である。

「ねらい」や「振り返り」に関連した質問項目をみると、「授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていた」と肯定的に回答した割合は、小学校 88.1%（前年度比+4.9%）、中学校 82.2%（前年度比+2.4%）と上昇しており、「課題は何か」「どうすればいいのか」を意識した見通しのある学習活動が広がっていることが分かる。学習活動を振り返る活動も含め、継続して取り組むことが大切である。

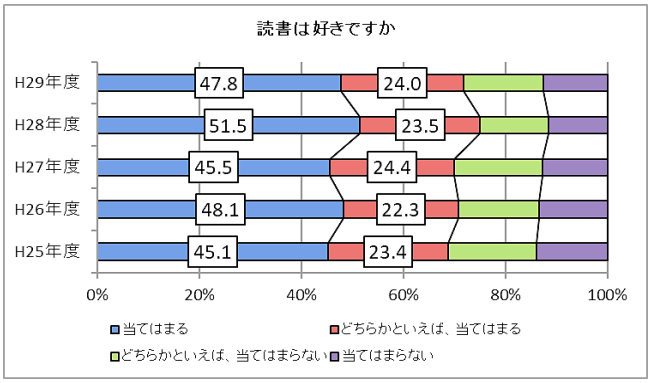
話を聞くことや話し合い活動については、学校教育では従前から取り組んでいる学習活動である。質問紙においても肯定的な回答割合も小学校は高く、中学校でも上昇傾向にあり、取り組みの充実が分かる。一方、「話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」については、肯定的な割合が 6 割程度である。対話的な学びの実現にむけては、身に付けた知識や技能を定着させるとともに、多様な表現を通じて、教師と子どもや子ども同士が対話し、それによって思考を広げ深める言語活動が重要となる。授業を通して、子ども達が考えを深めたり、新たな考えを見いだしたりしながら、学ぶことの楽しさや意義が実感できるよう、さらなる取り組みの充実が必要である。

「深い学び」の実現に向けては、情報を精査して自らの考えを根拠とともに伝えたり、先生からの課題や自分たちで問題を見いだして、他者と協働しながら解決策を考えたりする活動がこれからますます重要となる。昨年度から、「課題を意識して自ら考え取り組む」、「考えをうまく伝えるために、資料や文章、話の組み立て方を工夫する」、こうした質問項目が新たに設定されたことから、今後、学習指導につなげていくことが大切である。

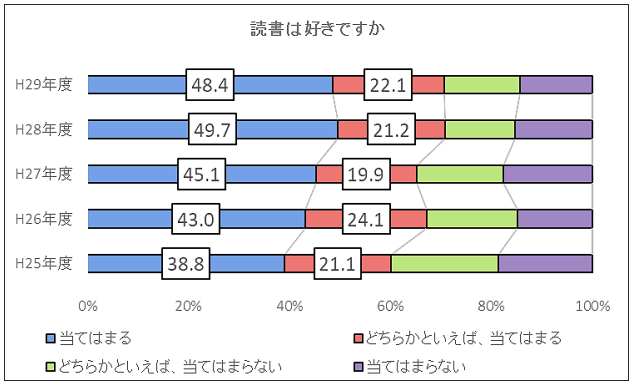
（☛Ｐ34　川西市教育委員会）（☛Ｐ35　学校）

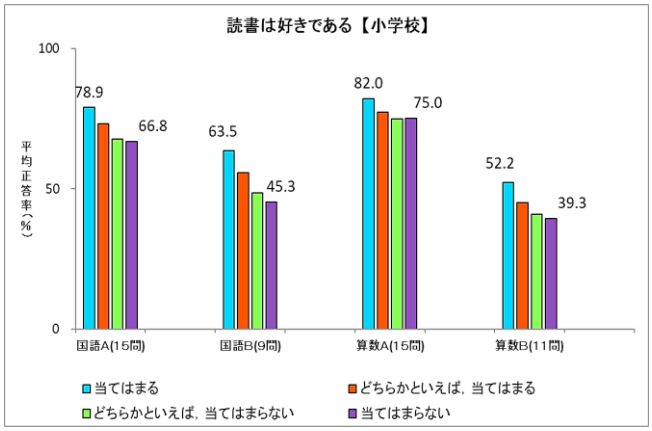
2 読書への興味・関心

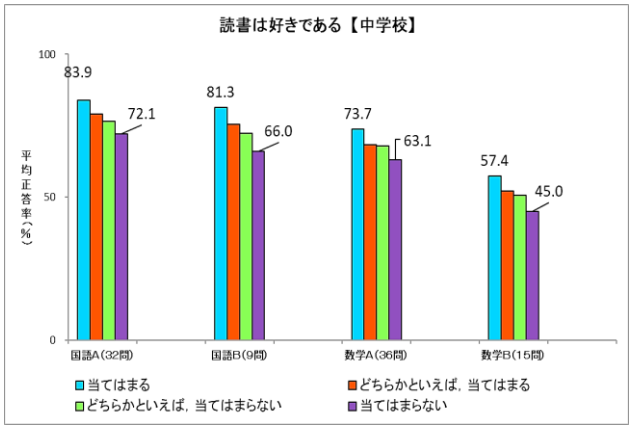
【小学校】

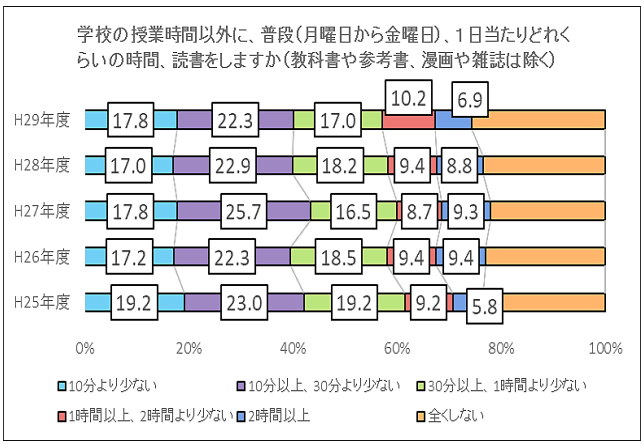


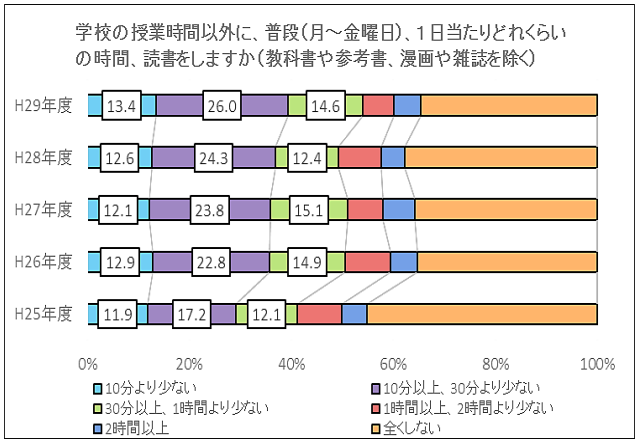
【中学校】

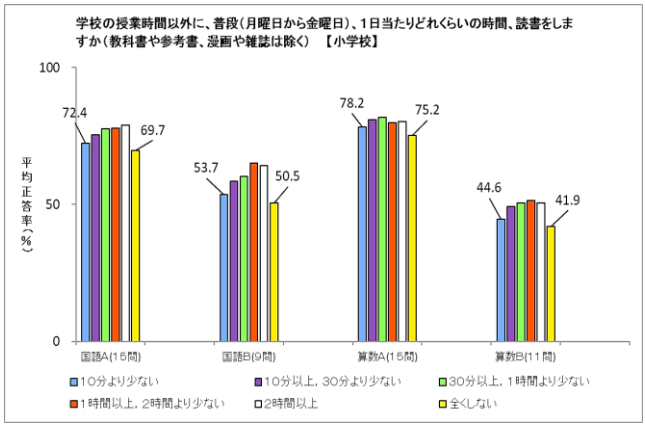


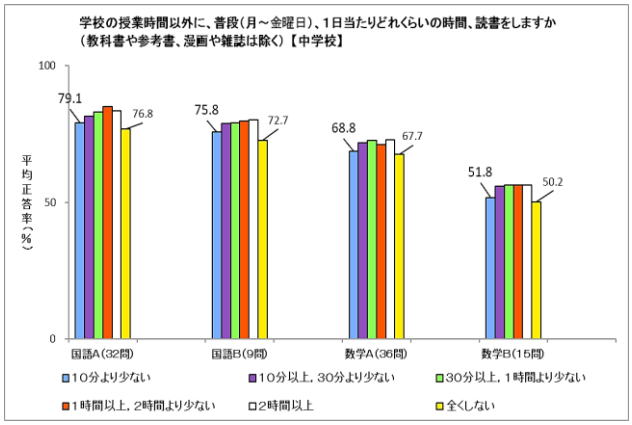












「読書が好き」と肯定的に回答した割合は、平成 25 年度小学校-3.6%、中学校-10.2%と全国平均を下回っていた差が、今年度小学校-2.5%、中学校+0.6%と小中学校共に改善傾向にが見られる。中学校で肯定的回答の割合が大きく上昇している背景には、学校生活の中で読書活動をする時間を確保していることや小学校段階で培っている読書に対する興味・関心を上手く引き継いでいることが考えられる。

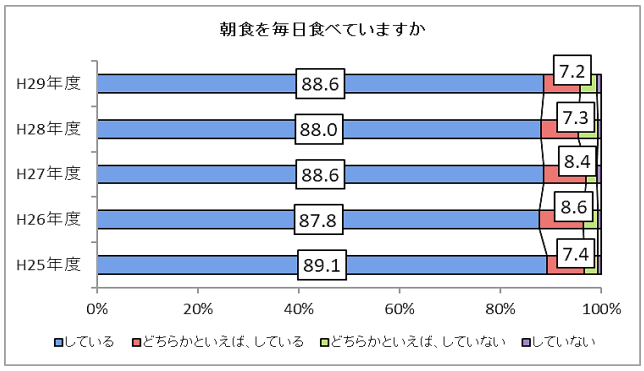
また、小中学校とも 10 分以上 30 分未満という時間の割合がもっとも多いことや、読書時間と平均正答率に相関が伺えることが分かる。

学校司書や図書ボランティアとの連携も、子ども達の読書活動の充実には非常に効果的であり、今後は、限られた読書時間の中で読書の質を高めたり、平日の時間を計画的に使って読書の時間を意欲的に生み出すなど、効果的な読書活動を継続していくことが大切である。

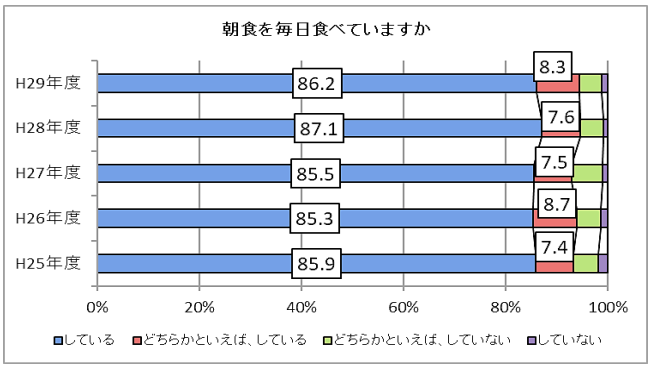
（☛Ｐ34　川西市教育委員会）（☛Ｐ35　学校）（☛Ｐ35　家庭）

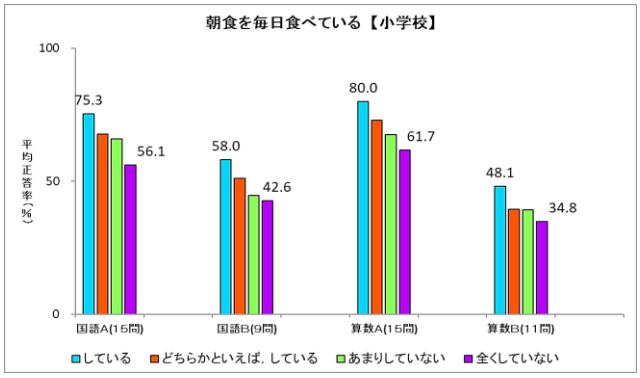
3 基本的生活習慣の向上

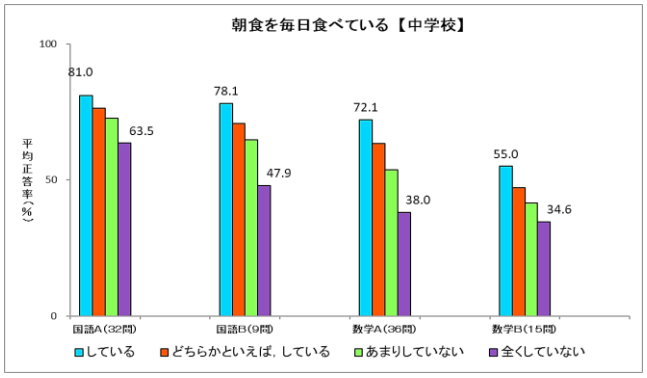
【小学校】

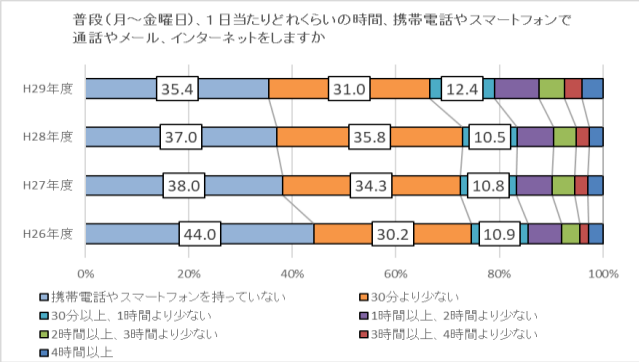


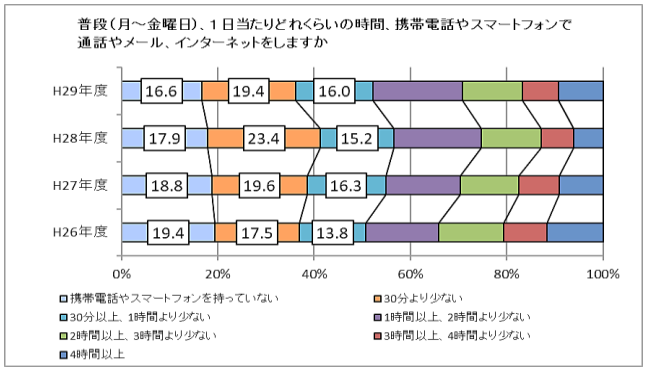
【中学校】

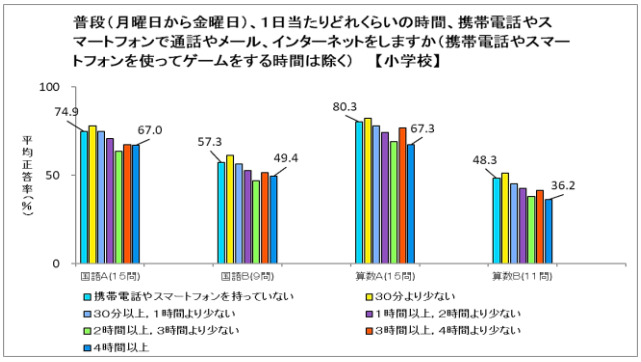


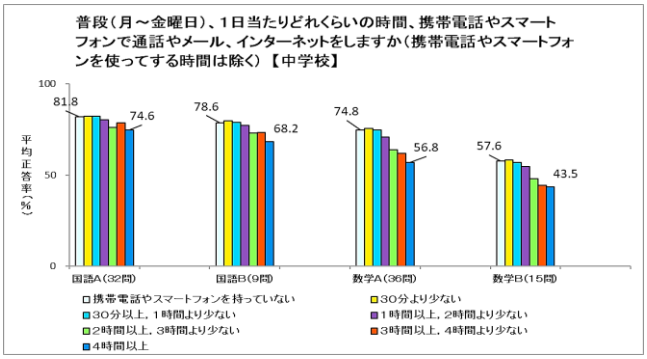








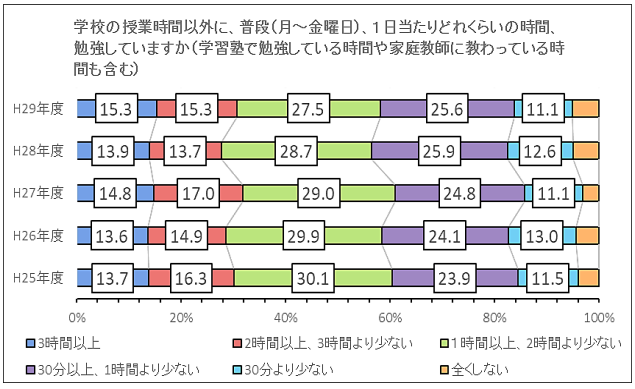




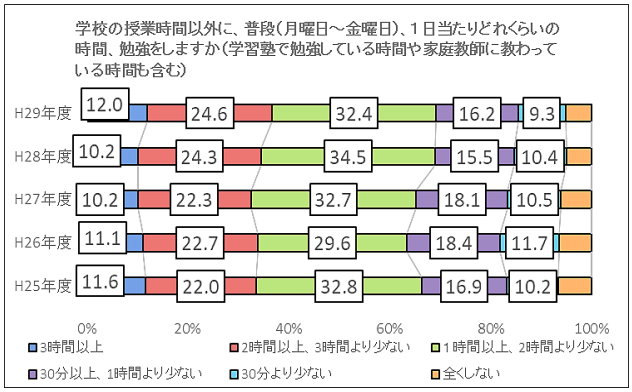
家庭での生活習慣は学力と関係があるとされ、特に、朝食や携帯電話・スマホの使用時間については、学力との関係が強い結果となっている。携帯電話・スマホの利用時間については、小中学校ともに所持率及び使用時間が増加傾向である。「平成 29 年度インターネット・ケータイ利用の関する調査（川西市教育委員会実施）」によると、所持者（中学生）の約 7 割はスマホであることから、家庭でも一定のルールやマナーを意識する機会をもつことが、必要になってきていることが伺える。 （☛Ｐ35　家庭）

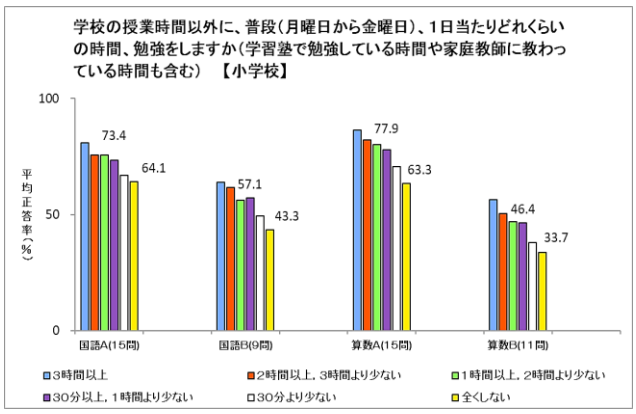
4 家庭学習の充実

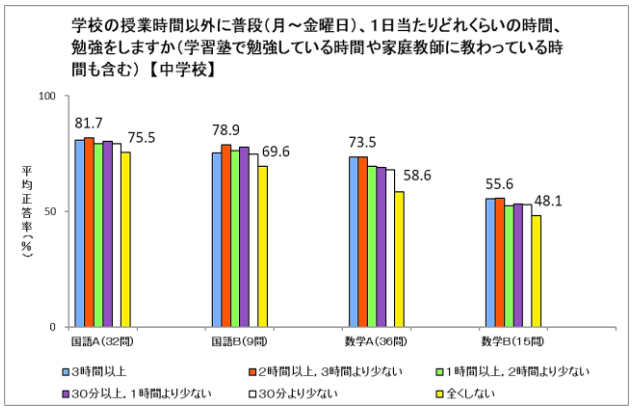
【小学校】



【中学校】



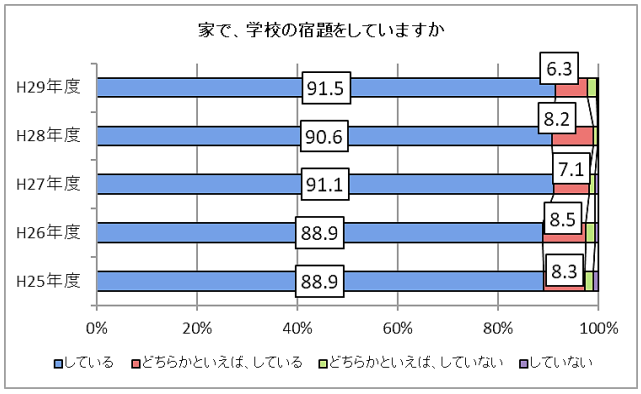


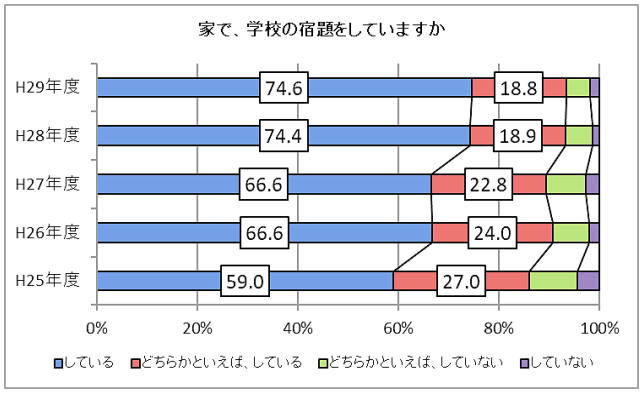


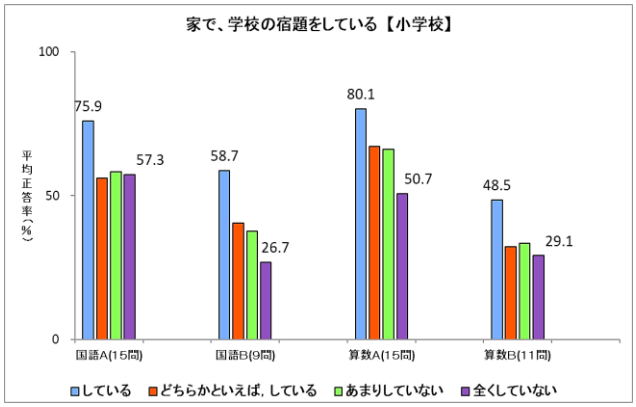
＊「川西市家庭学習ハンドブック」において、15 分×「学年」を家庭学習の時間のめやすとしている。

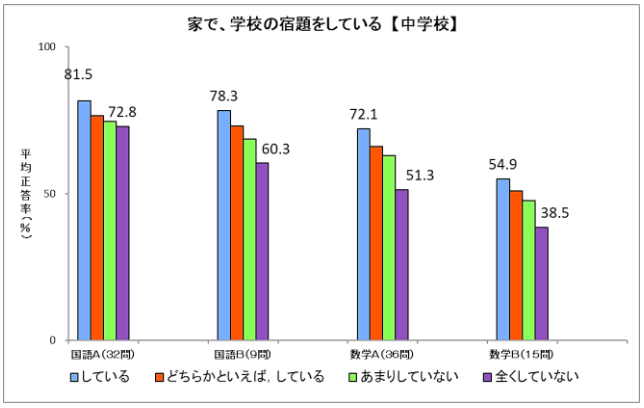
小学校 6 年生　15 分×6＝ 90 分　　(1 時間以上 2 時間より少ない)

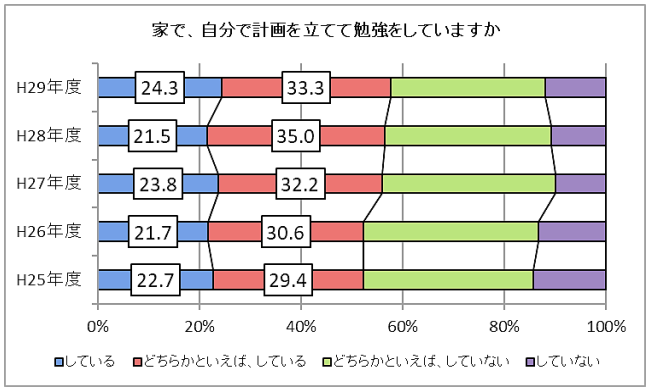
中学校 3 年生　15 分×9＝135 分　　(2 時間以上 3 時間より少ない)

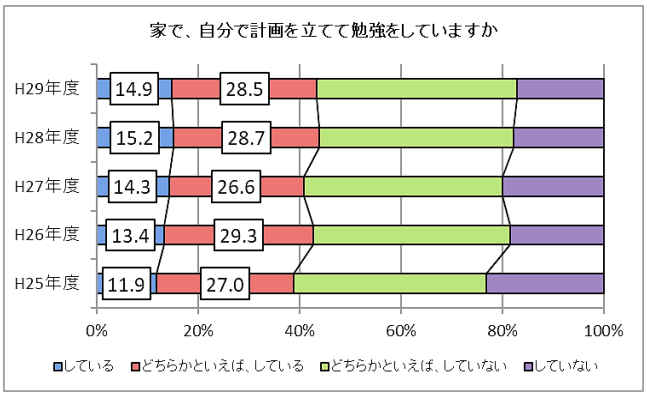


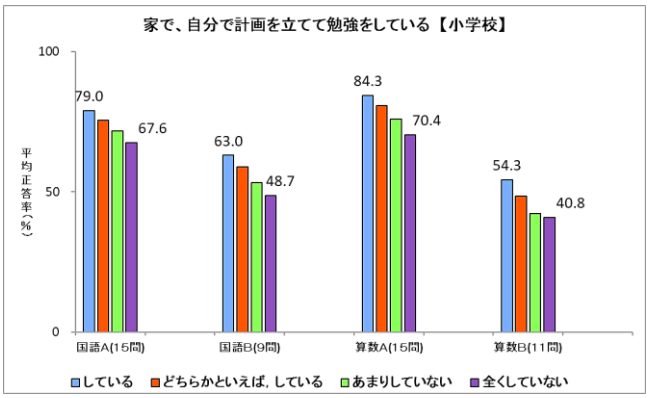


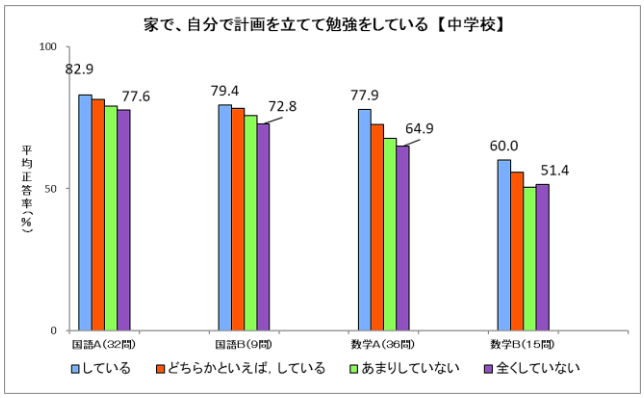












「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、１日当たり１時間以上勉強している」割合は、小学校58.1％（全国比-6.3％）、中学校69.0％（全国比-0.6％）となっている。

本市では、学校の教育活動と合わせ、放課後学習支援事業「きんたくん学びの道場」（以下「学びの道場」とする）を実施し、「学習する場」の幅も広げている。「学びの道場」を活用することで、家庭学習の習慣化に取り組んでいる。

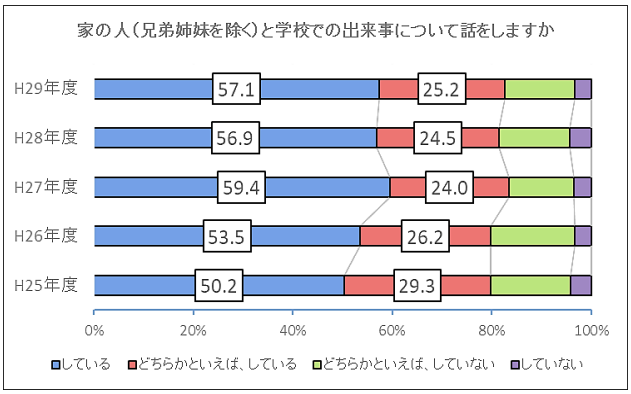
家庭学習における宿題の役割は、①家庭学習の習慣化、②授業内容を振り返って身に付ける及び授業での理解を深めること、である。「学校の宿題をする」項目に対して肯定的に回答している割合は、小学校97.8％（全国比+0.9％）、中学校93.4％（全国比+3.9％）と小中ともに全国平均を上回っており、課題に真面目に取り組む意識は高いものとなっている。特に小学校算数の宿題に関しては、学習した内容の定着を図る内容となっていることが多く、宿題にきちんと取り組む習慣が、学習内容の定着に学習につながるものと考える。

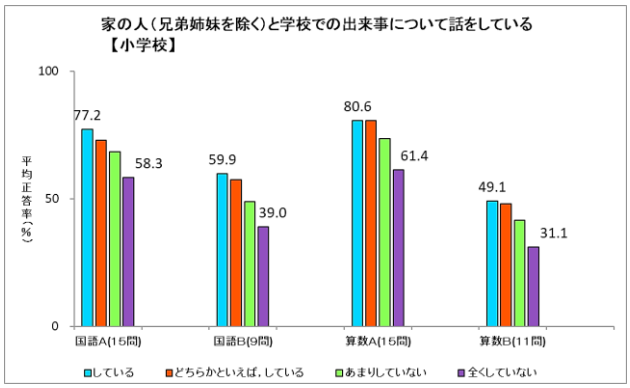
「家で、自分で計画を立てて勉強している」の肯定的な回答の割合は小学校57.6％、中学校43.4％である。家庭で学習する機会の多い小学校段階では、自分で計画を立て勉強する意味や方法を伝えることが重要である。宿題を基本に、たとえば、家庭学習で取り組める予習、復習等を授業と関連する課題にすることで取り組みやすさが増してくる。中学校段階になると「宿題に頼る家庭学習」から「自ら学ぶ学習」への転換が必要である。「自ら学ぶ姿勢」は、これからの生涯にわたる「学び」にとって重要であるため、継続した取り組みが必要である。

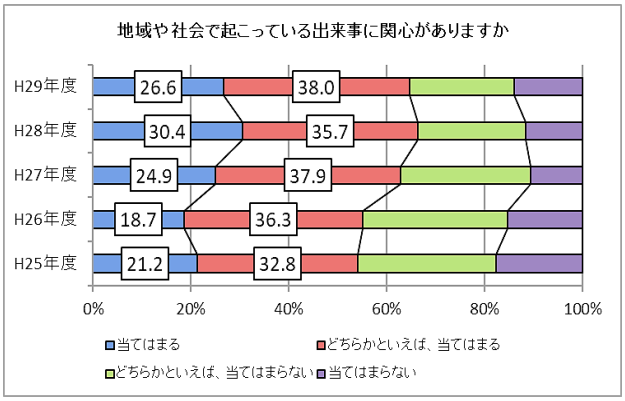
（☛Ｐ34　川西市教育委員会）（☛Ｐ35　学校）（☛Ｐ35　家庭）

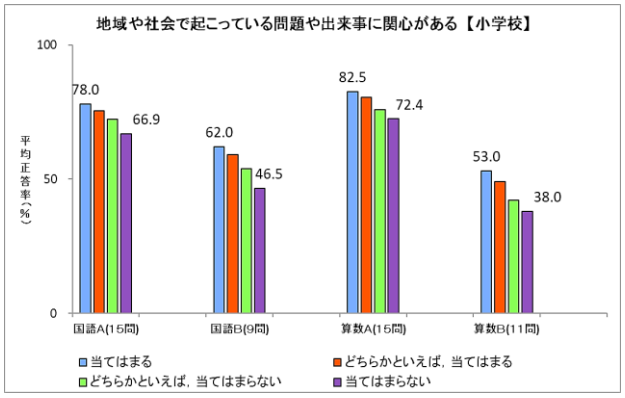
5 家庭や地域とのつながり

【小学校】

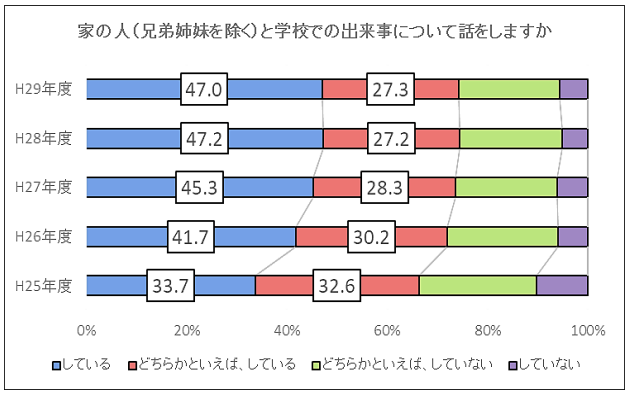


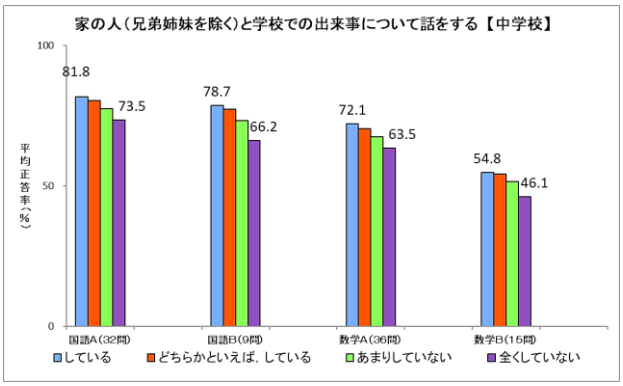


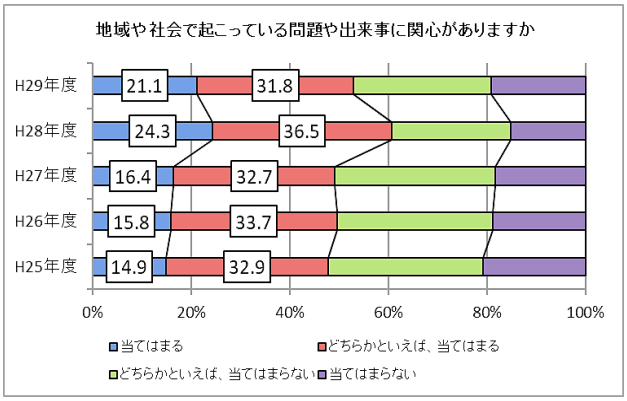


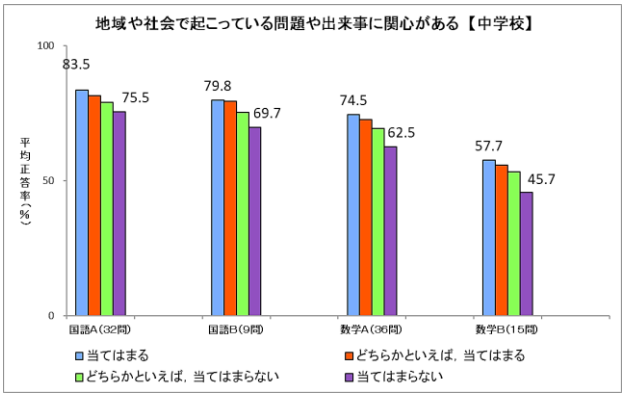


【中学校】

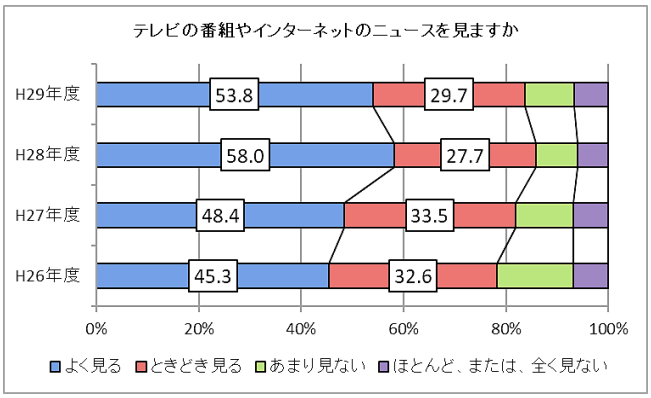




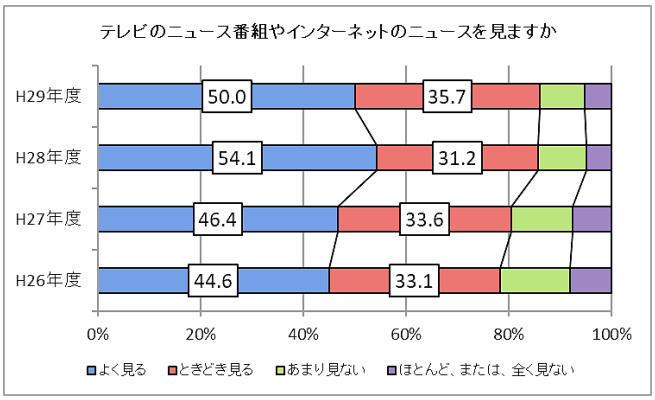


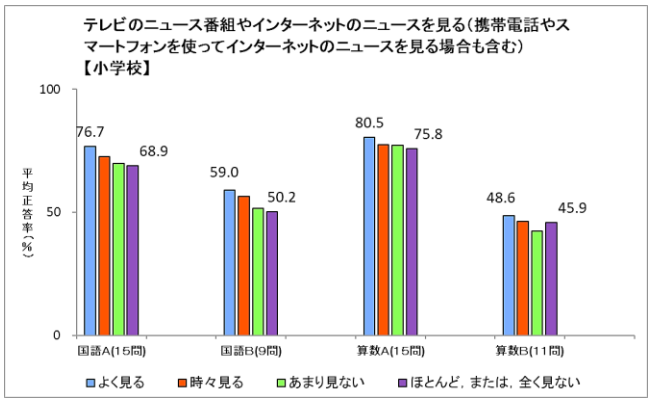


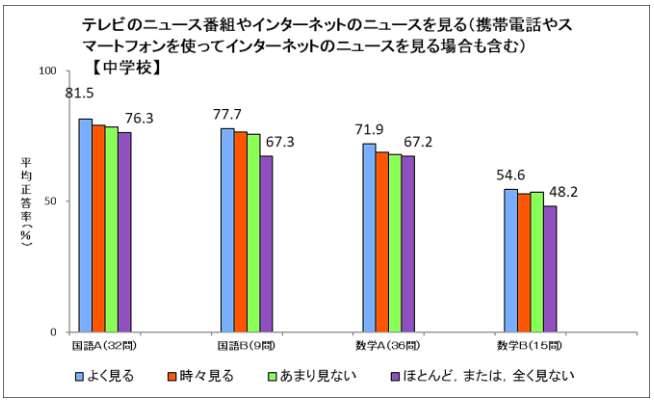
【小学校】



【中学校】







小中学校共に、「家の人（兄弟姉妹は除く）と学校での出来事について話をする」、「地域や社会で起こっている出来事に関心がある」という家族や地域の繋がりと学力には、関係があることが伺える。

川西市は、近年、家族とのつながりを肯定的に捉えている児童生徒の割合が増加傾向にある。学校ホームページや学校だより等を通して、学校の教育活動などを知る・関心をもつことは、子ども、学校、家庭を繋ぐうえで効果的であり、また、学校生活の出来事を子ども自身が家で話すということは、子どもがその日を振り返るだけでなく、話を聞いてもらうことで家族から愛情を感じることができるだけでなく、自尊感情の醸成にもつながる大切な対話である。

「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る」と肯定的に回答している割合も、小中学校共に 80%を超えている。世の中の動きや変化に関心を持ったり、社会の出来事に対して自分なりの考えを持ったりすることを習慣づけていくことで、学校だけでなく家庭生活の中でも子ども達の「主体的・対話的で深い学び」の素地を築くことができると考える。

（☛Ｐ35　学校）（☛Ｐ35　家庭）（☛Ｐ35　地域）

Ⅵ. 今後の取り組みについて

これからの子どもたちには、「自分のよさや可能性を認識するとともに、他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手になることができるようにすること」が求められています。

そこで、学校や家庭での教育活動を通じて、子どもたち自身が、「何を学ぶか・何ができるか」という知識・技能を自覚するだけでなく、「どのように学ぶか」について考え、判断し、表現しながら主体的に学習に取り組む態度を含めた学び方を身に付けていくことが必要となります。

本調査において国は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的としています。本市においても今回の調査結果は、川西市の子どもたちのこれから必要とされる資質・能力を育むための取り組みを検証するものであり、教育における目的を見失うことなく、わたしたち大人が子どもたちのために環境を整えることが重要であると考えます。

子どもたちが将来の夢や目標を大きく持ち、それに向かって「学び」を進めていくためにも、学校・家庭・地域が一丸となって育て、支えていくことがとても大切であると考えます。

川西市教育委員会では、全国的な状況との関係及び川西市の経年変化などから、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。

＊新学習指導要領が目指す資質・能力の育成を軸とした授業改善および言語活動の充実に向けた教職員研修の実施

＊基礎的な生活習慣や学習習慣の定着に向けて、家庭や地域との連携を深めるとともに、安心、安全な学校環境づくり、問題行動への迅速かつ的確な対応としての児童・生徒指導の更なる充実

＊中１ギャップの解消、居場所づくり、学びの連続性に基づく学力向上に向けて、就学前小中連携教育の充実

- ✧ 地域性を踏まえた教育目標の設定
- ✧ こども理解の推進
- ✧ 学習指導の継続性に関する研究
- ✧ 学習内容の系統性に関する研究

＊外国語学習指導の充実に向けて、小学校への外国語指導支援員及び外国語指導助手の配置、中学校への外国語指導助手の配置

＊読書活動の充実及び「学校司書」との連携、学校図書館ボランティアの活動等の支援

＊学校における ICT（情報通信技術）の活用及び整備

＊家庭学習の習慣化に向けて、「きんたくん学びの道場」の実施

＊子どもたちの自立支援の推進に向けて、川西市独自の体験活動事業の「里山体験学習」や「先輩に学ぼう！」の実施

＊新学習システムによる個に応じたきめ細かい学習指導の充実

などの方策を推進し、「川西の教育」に示す「めざす人間像」、「５つの基本方針」を実現すべく取り組みます。

学校では、調査結果を踏まえて、「学力向上総合プラン」を策定します。

＊「めあて」「見通し」「振り返り」を明確にし、主体的な学びおよび言語活動の充実につなげる「わかる授業」づくり

＊安心で安全な環境に向けた「学習規律」の確立

＊基礎・基本の定着に向けた「学習タイム」の充実

＊教職員の指導力向上に向けた「校内研究」の充実

＊学校での学習と家庭学習をつなげる「自主学習」支援

＊子どもの豊かな心を育むための「道徳教育」、「体験活動」の充実

などの方策を位置付け、全職員一丸となって、児童生徒への教育指導の改善に取り組みます。

家庭におきましては、子どもたちの豊かな情操を育む基礎的な資質や能力の育成を期待します。

＊子どもたちの健やかな育ちに向けた基本的な生活習慣の確立

＊「家庭学習ハンドブック」等を活用し、自ら学び、考える力を育む家庭学習習慣の定着

＊言語活動、豊かな人間関係の礎となる家庭での読書活動など、家族で一緒に取り組むことのできる活動の促進

など、子どもたちとともに取り組んでいただきますようお願いします。できたことをほめて、子どもたちのやる気を高め、主体的な行動を促すことは、自立した人間に育つためにも重要な要素です。

地域におきましては、社会全体で子どもたちを育てる環境づくりを期待します。

＊地域の人材や自然・文化などを活用した「総合的な学習の時間」や「体験学習」の充実

＊学校施設等を活用した「放課後こども教室」等、地域全体で子どもたちの学びを支える環境の整備

＊子どもたちの自立支援の推進に向けた「仕事」のやりがいや楽しさを伝える「トライやる・ウィーク」などを核としたキャリア教育の展開

＊「ふるさと川西」への帰着意識向上に向けた伝統的な行事の「地域的な行事」への参加・協力

など、学校教育の中だけでは実現することができない側面の支援をご協力いただきたいと考えています。

ご理解・ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。